

研究紀要

令和元年度
第43号



静岡県博物館協会

静岡県博物館協会
研究紀要

第43号 / 令和元年度

表紙 / 三島市郷土資料館 郷土教室「昔のどうぐ」の様子

目次

-
- 02 静岡近代美術年表稿 昭和戦後編 6 立花 義彰
-
- 26 三島市郷土資料館のリニューアル
市民ボランティアと協働で進める博物館活動 三島市郷土資料館 平林 研治
-
- 34 研究ノート: 須田国太郎の滞欧期写真について 上原美術館 齊藤 陽介
-
- 40 第25回 ICOM(国際博物館会議)京都大会 2019報告 浜松市楽器博物館 嶋 和彦
-
- 49 上原美術館所蔵
(1) 建久四年書写『阿毘達磨俱舍論』卷第十二について
—その製作背景を中心に— 上原美術館 菅野 龍磨
-
- 50 静岡県博物館協会 研究紀要投稿規程

編集・発行

静岡県博物館協会(事務局)

〒422-8002 静岡市駿河区谷田53-2

静岡県立美術館内

電話・054-263-5857 FAX・054-263-5742

デザイン 有限会社サイズ

発行日 2020年(令和2年)3月31日

印刷 有限会社 橋本印刷所

静岡近代美術年表稿 昭和戦後編 6

立花 義彰

昭和41(1966)年11月、佐野美術館が開館。前年の久能山東照宮博物館の開館と併せ、戦後復興から高度成長期に向う中での、地域の文化財保護及び一般公開に向けた博物館施設整備の流れに位置付けられよう。

佐野美術館は、三島市出身の実業家佐野隆一(明治22・1889-昭和52・1977)が自らの喜寿記念に郷里三島の父母の隠居地に隣接し建設、財団法人化、所蔵の東洋古美術品を一般の観覧に供したもので、鉄筋コンクリート造2階建、延951㎡。351㎡の展示室のほか、講堂、収蔵庫、資料研究室、事務室等を併せ持つ。(註1)刀剣のコレクションで世に広く知られる事となった。

県下の制作・発表活動面では、美術評論家石子順造を核として、清水・静岡の作家達の新たなグループ「幻触」が誕生している。昭和41(1966)年5月に静岡市内小谷画荘での静岡グループ“触”展開催が確認できるが、その2ヶ月の後に「空間を乱す部分品による一見まじめ人間」というテーマで、7月1日から10日にかけて東京のギャラリー創苑を会場としてグループ「幻触」展が行なわれた。更に9月23日には、グループ「幻触」主催で石子順造、高松次郎を講師として招き、現代美術講演会が県民会館で開催されている。

翌年の昭和42(1967)年8月15日より20日、グループ「幻触」展を県民会館で開催、同月17日付「静岡新聞」には石子順造が「幻触展を見て」を寄せる。また、続く9月11日から30日までは東京のギャラリー新宿でグループ「幻触」による()展を開催。これに関しては「静岡新聞」10月19日付夕刊の教養欄に飯田昭二「現代美術の追求-現実の中での激烈な精神運動-東京でのグループ展を終えて」があり興味深い。

昭和43(1968)年4月30日より、東京の2つの会場、東京画廊では5月18日まで、同じく村松画廊では5月11日までの会期で、石子順造、中原祐介の企画によるトリックス・アンド・ヴィジョン展が開催される。(註2)

これを伝える「静岡新聞」5月9日付の「画廊だより」は、後半で中原の弁を引用しながらも、前半は完全に静岡在住作家寄りと言える。「芸術が歴史的体系の中で自律的に崩壊した

現代は芸術思考の迷える季節でもある。そういう時、静岡の現代美術を標榜する「グループ幻触」が、東京・銀座の東京画廊・村松画廊において、トリックス・アンド・ヴィジョン(盗まれた眼)という展覧会を開いている。もともとこの催しは「グループ幻触」のメンバーだけではなく、中原祐介、石子順造氏の二人の美術評論家が企画し、全国から若手の作品を集めたものだ。顔ぶれとしては、飯田昭二、前田守一、鈴木慶則、小池一誠、丹羽勝次、高松次郎、中西夏之、堀内正和らの十九人展であり、人間の視覚機能を意思的に意識し、あくまでもそれに固執しつつ自己の創造的なイデーと絡みあわせながら表現するという、かなり明快な人間論に基づいた展覧会である」と、ここでは「幻触」側からの観点が述べられている。

しかし、一般の人々にとっては、これらの展覧よりも、静岡初の日展開催の方が、印象に残るものであったに相違ない。昭和43(1968)年8月3日より26日までの間、静岡で初の日展静岡展が県民会館と産業会館を会場として開催され、八万四千五百十人の入場を記録した。その開会式の司会を、書家沖六鵬を父に持つ沖和雄県広報課長が務めているのも今日では興味深い。

註

- 1 静岡県博物館協会編『しずおか博物館』静岡県博物館協会 昭和57(1982)年12-13頁、『静岡大百科事典』静岡新聞社 昭和58(1983)年295頁
- 2 この展覧会への緻密な考察として成相肇「トリックス・アンド・ヴィジョン展-盗まれた眼」について-最近の調査から」『府中市美術館研究紀要』第15号 平成23(2011)年、同「トリックス・アンド・ヴィジョン展」研究補遺および石子順造関連文献目録補遺」同17号 平成25(2013)年がある。

1966 昭和41年

- 1/ 2 新春作品展第8回展於静岡扇子屋(-31)。(毎日静岡中部版 [以下毎日中部版等略記] S40.12/30, S41.1/18, 静岡1/6, 読売静岡B版1/6, 朝日静岡版1/16)
- 1/ 望月良蔵個展於清水戸田書店(-10)。(静岡1/5)
- 1/ 鈴木雁展於掛川福田カメラ(-14)。(毎日静岡版1/12)
- 1/10 栗田博光展於清水中電ショールーム(-)。(朝日静岡版1/9)
- 1/ 武蔵野美大校友会第2回展於県民会館(-15)。(読売静岡B版1/12, 毎日中部版1/13, 静岡1/14)
- 1/12 むたる会第1回油絵展於浜松松菱(-16)。(毎日東, 中, 西部版 S40.11/7, 西部版 S41.1/11, 朝日遠州版1/11, 駿豆, 静岡, 遠州版1/16, 浜松民報1/18)
- 1/13 浜松美術家連合第2回展於浜松市民文化会館(-16)。(毎日西部版1/9, 13, 中日遠州版1/13, 朝日遠州版1/15, 浜松民報1/21)
- 1/15 曾宮一念風景画展於東京松屋(-11)。
- 1/20 出野登個展於浜松彩画堂(-25)。(朝日遠州版1/20)
- 1/21 鈴木重光展於沼津上土センター赤のれん(-27)。(毎日東部版1/21, 沼津1/24)
- 1/21 今沢司郎個展於静岡谷島屋書店(-27)。(読売静岡B版1/21, 静岡1/23, 25, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版1/23)
- 1/26 七丈南豊前衛書展於静岡産業会館(-28)。(毎日中部版1/23, 読売静岡B版1/27)
- 1/28 藤本東一良新作展於東京松屋(-2/2)。(朝日1/31)
- 1/31 平井俊男展於清水戸田書店(-2/6)。(静岡1/30, 2/5, 朝日静岡版2/1, 毎日中部版2/3)
- 2/1 山下菊二・中村宏・立石敏一展於東京日本画廊(-19)。(朝日2/3)
- 2/1 堤達男《望月喜多司胸像》除幕式於清水小島忠霊塔。(静岡1/27, 2/2, 毎日静岡版1/29, 朝日静岡版2/1)
- 2/1 小林洋子展於静岡扇子屋(-10)。(静岡2/3, 読売静岡B版2/3)
- 2/1 県善三郎油絵展於浜松松菱(-6)。(朝日駿豆, 静岡, 遠州版1/30, 静岡2/2, 毎日西部版2/3, 浜松民報2/5)
- 2/3 高柳千賀子モードデッサン展於静岡谷島屋書店(-9), 於扇子屋(11-20)。(読売静岡B版2/3, 静岡2/5, 15, 毎日中部版2/8)
- 2/4 青年美術第3回展於浜松商工会館(-9)。(朝日遠州版2/3, 5, 浜松民報2/9)
- 2/6 光風会静岡支部第2回展於県民会館(-9)。(毎日中部版2/6, 朝日静岡版2/6, 読売静岡B版2/8)
- 2/ 名陶第1回展於沼津富士急(-12)。(毎日東部版2/6)
- 2/ 尚光会第20回展於浜松松菱(-13)。(中日遠州版2/9)
- 2/7 今日の自画像展於東京梅花亭ギャラリー(-20)。
小池一誠、鈴木慶則出品。
- 2/8 野中鳴雪逝去。66歳。(毎日東, 中, 西部版2/9)
- 2/10 川上尉平展於浜松彩画堂(-28)。(朝日駿豆, 静岡, 遠州版2/6, 浜松民報2/18)
- 2/19 鎌倉近代美術館所蔵20世紀の日本名作展於県民会館(-23)。(毎日中部版2/17, 静岡2/19, 朝日静岡版2/18, 駿豆, 静岡, 遠州版2/20, 読売静岡B版2/18, 24)
- 2/21 鈴木和夫スケッチ展於清水中電ショールーム(-26)。(毎日西部版2/17, 静岡2/21, 24)
- 3/1 河野修治油絵個展於静岡扇子屋(-10)。(静岡3/3, 読売静岡B版3/3, 6)
- 3/1 杉山良雄展於浜松彩画堂(-7)。(朝日駿豆, 静岡, 遠州版2/27)
- 3/3 第26回美術文化協会展於東京都美術館(-16)。
求正美、会員推挙。(浜松民報3/9)
入選者。(毎日東部版3/4, 浜松民報3/5, 9)
- 3/3 県文化奨励賞、中野謙二、佐野常光。(静岡2/20, 3/4, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版2/20, 読売静岡B版2/20, 中日静岡版2/20)
- 3/5 香取正彦《仲田恵法・仲田順光胸像》除幕式於藤枝南女子高校。(静岡3/3, 5*)
- 3/7 静岡県版画協会東京展於東京梅花亭ギャラリー(-13)。
- 3/8 太田重範逝去。(静岡3/31, 4/16, 読売静岡B版4/16, 朝日静岡版4/17)
- 3/9 平野敬吉[平野富山]《若人の像》設置於清水南高校。(静岡3/10, 朝日静岡版3/15, 朝日駿遠, 静岡

- 版5/1*)
- 3/10 新井豊個展於浜松彩画堂(-15)。
(毎日西部版3/9, 浜松民報3/9)
- 3/11 サロン・ド21世紀新作小品展第8回展於静岡扇子屋(-20)。(読売静岡B版3/12, 18, 朝日静岡版3/13, 静岡3/17)
- 3/15 国際フォトコンテスト展於浜松松菱(-20)。
(朝日駿豆, 静岡, 遠州版2/13)
- 3/ 佐野丹丘個展於沼津丸運ビル2階ホール(-21)。
(静岡3/19)
- 3/ 花房英樹展於県民会館(-21)。(静岡3/17, 朝日静岡版3/18, 駿豆, 静岡, 遠州版3/20)
- 3/17 渡辺俊展於浜松彩画堂(-22)。(浜松民報3/19, 20, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版3/20, 中日遠州版3/20)
- 3/18 第25回水彩連盟展於東京都美術館(-31)。
入選者発表。(静岡3/17, 24, 朝日静岡版3/17, 浜松民報3/20)
- 3/19 人間とはなにか写真展於県民会館(-27)。(毎日東, 中部版3/18, 静岡3/19, 読売静岡B版3/22, 26)
- 3/20 島田章三展於浜松ナカムラ画廊(-26)。
(浜松民報3/23, 26)
- 3/21 浜松美術連盟結成。(朝日駿豆, 静岡, 遠州版1/23, 遠州版3/12, 浜松民報2/1, 3/13, 中日遠州版4/18)
- 3/21 山田安新作展於静岡扇子屋(-30)。
(毎日中部版3/23, 静岡3/24, 読売静岡B版3/25)
- 3/23 鈴木重種展於東京おぎくぼ画廊(-28)。
(浜松民報3/23)
- 3/24 富士市民文化センター落成。(静岡3/18, 23, 24)
- 3/24 三沢佐助を囲む絵画展於県民会館(-26)。
(毎日中部版3/15, 静岡3/18)
- 3/25 福井良之助版画展於浜松彩画堂(-4/6)。
(朝日遠州版3/26)
- 3/ 木下得《希望》葦山中学へ寄贈される。
(毎日東部版3/30)
- 3/31 近藤至弘個展於静岡扇子屋(-4/10)。(静岡3/31, 4/1, 9, 朝日静岡, 遠州版4/3, 毎日中部版4/7)
- 4/ 1 第34回日本版画協会展於東京都美術館(-19)。
山口源《懷疑の夢幻》(日本美術年鑑S.42)
- 4/ 1 第16回モダンアート展於東京都美術館(-19)。
新入選者。(朝日駿豆, 静岡, 遠州版4/1)
- 4/ 1 中村正男個展於沼津静岡新聞沼津支局(-5)。
(静岡3/28, 4/1, 朝日静岡版3/30)
- 4/ 2 静岡風景展於県民会館(-5)。(読売静岡B版4/1, 静岡4/2, 毎日中部版4/2)
- 4/ 4 曾宮一念展於浜松ナカムラ画廊(-10)。
(中日遠州版4/7, 浜松民報4/8, 13)
- 4/ 5 鈴木三朝展於浜松松菱(-10)。(毎日西部版3/29, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版4/3, 浜松民報4/3, 15)
- 4/ 7 浜松美術家協会解散。(浜松民報4/10)
- 4/ 7 神谷広見展於浜松彩画堂(-12)。(中日遠州版4/7, 浜松民報4/8, 16, 毎日西部版4/9)
- 4/12 熊谷光夫展於浜松松菱(-17)。(毎日西部版4/13)
- 4/13 大木克哉写真展於静岡扇子屋(-20)。
(静岡4/12, 16, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版4/13, 読売静岡B版4/14, 16)
- 4/13 第14回日彫展於東京都美術館(-5/2)。
浅井行雄《裸婦》澤田政廣《釈迦》重岡建治《魚と少女》下山昇《渚》堤達男《飛ぶ雲》飛岡文一《XYZAOЖНИК У》平馬学《少女》平野敬吉《流星》和田金剛《女》(出品目録)
- 4/ 杉山良雄展於県民会館(-19)。(読売静岡B版4/16)
- 4/15 静岡創型会第10回彫刻展・故太田重範遺作展於県民会館(-19)。(目録, 静岡3/31, 4/16, 読売静岡B版4/15, 16, 朝日静岡版4/17, 毎日中部版4/17)
- 4/18 伏見文具店、画廊開設。
(朝日静岡版4/16, 静岡4/23)
- 4/21 鈴木大麻・須藤一雄・辻谷勝三・松下忠雄四人展於熱海長崎屋(-24)。(毎日東部版4/14, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版4/16, 静岡4/23)
- 4/21 水上安・吉浜うめ二人展於静岡扇子屋(-30)。
(静岡4/21, 23, 朝日静岡版4/26)
- 4/22 第40回国画会展於東京都美術館(-5/8)。
青木達弥《ドームのある街景》曾宮一念《佐渡の野仏》野田好子《眠りの推移》山口源《景(敬慕)》栗山茂《或る風景》伊藤勉《いのちの芽》中川雄太郎《塞の神々》芹沢銈介《海辺》出品。
柴田隆二《像+影》(国画会野鳥賞)。(静岡5/10)
新入選者。(朝日駿豆, 静岡, 遠州版4/22)
- 4/22 第43回春陽会展於東京都美術館(-5/8)。
小栗哲郎《小坂みかん》出品。
広野殷生《雪の中の鳥》《春告鳥》
入選者。(朝日駿豆, 静岡, 遠州版4/20)

- 4/23 澤田政廣《小松勇次胸像》除幕式於熱海梅園。(伊豆毎日S37.8/4, S40.5/18, 9/3, 29, 熱海S39.4/11, 8/11, 毎日東部版4/24)
- 4/25 新槐樹社第10回展於県民会館(-30)。(静岡4/22, 23, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版4/24, 読売静岡B版4/27)
- 4/28 平野敬吉《若人の像》除幕式於清水県立清水南高校。(朝日駿豆, 静岡版5/1)
- 5/ 1 柏木俊一近作色紙展於三島ララ洋菓子店(-15)。(三島民報5/5)
- 5/ 1 山田安 初夏展於静岡扇子屋(-10)。(静岡4/30, 5/3, 毎日西部版5/5)
- 5/ 2 現代世界巨匠版画展於静岡小谷画荘(-10)。小谷画廊開設。(朝日駿豆, 静岡, 遠州版5/1, 静岡5/3, 7, 10, 読売静岡B版5/3, 毎日中部版5/5)
- 5/ 5 渡辺華山とその一門の十哲展於県民会館(-7)。(静岡5/5)
- 5/ 6 “点”第2回展於浜松彩画堂(-10)。(毎日西部版5/5, 浜松民報5/7)
- 5/ 7 山下寿郎設計事務所《県営体育館》開館。(読売静岡版S39.11/23, 静岡B版S40.1/19, 毎日静岡版1/31, 9/13, 静岡2/1, 4/7, 5/7, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版5/3, 浜松民報5/7)
- 5/ 8 サロン・ド21世紀小品展第9回展於清水戸田書店(-14)。(毎日西部版5/5, 静岡5/7, 12, 朝日静岡版5/8)
- 5/10 第7回現代日本美術展於東京都美術館(-30)。北川民次《花と幼女》佐野繁次郎《地平線》野田好子《森の中》《7時(カーテンの記憶)》山口源《ロゴス》土井俊泰《踏歌》中村宏《観光絵画》長岡宏《三面鏡1》上田臥牛《裸木》《裸木》(みづゑno.737, 静岡5/19)
- 5/10 人間国宝新作展於静岡松坂屋(-15)。(朝日駿豆, 静岡, 遠州版5/8, 毎日東, 中, 西部版5/10, 読売静岡B版5/10)
- 5/10 碧第9回展於浜松松菱(-15)。(静岡5/10, 朝日遠州版5/11, 浜松民報5/13, 読売静岡B版5/14)
- 5/11 壮炎会第21回展於浜松松菱(-15)。(毎日西部版5/8, 静岡5/10, 読売静岡B版5/14, 浜松民報5/14)
- 5/17 川端龍子埋葬式於修善寺。(静岡5/25, 6/2)
- 5/17 緑青会第2回展於浜松松菱(-22)。(毎日西部版5/17, 朝日遠州版5/17, 浜松民報5/19, 26)
- 5/18 山下清代表作展於新静岡センター(-24)。(毎日中部版5/18, 読売静岡B版5/19, 静岡5/8, 20, 22)
- 5/18 美成会展於静岡小谷画荘(-23)。(静岡5/19)
- 5/ 現代洋画壇人気作家小品展於静岡吉見書店(-22)。(読売静岡B版5/19, 毎日中部版5/21)
- 5/ 広野殷生個展於沼津沼津画廊(-29)。(静岡5/17, 沼津5/19)
- 5/19 山道栄助・石井美光展於伊東マルコー(-25)。(朝日駿豆版5/14, 毎日東部版5/22)
- 5/19 静流会第20回展於沼津マルトモ(-22)。(黎明4/1, 5/13, 21, 沼津5/13, 読売静岡B版5/20, 沼津朝日5/21)
- 5/ 小山勇小品展於浜松彩画堂(-24)。(毎日西部版5/22, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版5/22, 浜松民報5/24)
- 5/20 井出芳志《はばたきの像》除幕式於焼津中学。(朝日静岡版5/21, 静岡5/21, 読売静岡B版5/21)
- 5/20 近代美術協会第2回展於東京池袋西武(-20)。石田善彦出品。土味川独甫遺作展示。(静岡5/24)
- 5/21 小林義司油絵個展於静岡扇子屋(-31)。(静岡5/24, 毎日東, 中部版5/24, 朝日静岡版5/24, 読売静岡B版5/28)
- 5/23 北川民次個展於東京日動画廊(-31)《蘭》ほか。(美術年鑑S.42, 朝日5/25, 中日5/30)
- 5/23 北川民次日本画余技展於東京飯田画廊(-31)。(朝日5/25)
- 5/24 桜井琴風書展於静岡産業会館中電ホール(-27)。(読売静岡B版5/24, 26, 毎日中部版5/22, 朝日静岡版5/24, 静岡5/26)
- 5/25 グループ“触”展於静岡小谷画荘(-31)。(毎日東, 中部版5/24, 静岡5/26, 読売静岡B版5/28)
- 5/25 諸家所蔵現代洋画展於浜松市民会館(-29)。(浜松民報5/11, 21, 毎日西部版5/18)
- 5/27 袴田省三個展於沼津富士急(-6/5)。(毎日東部版5/25, 沼津朝日5/28, 静岡6/4)
- 5/31 みちみ会第1回展於浜松松菱(-6/5)。(浜松民報3/25, 5/18, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版5/29, 毎日西部版6/1, 静岡6/4)
- 5/ 樽原益大《夜明けの富士山》沼津市へ寄贈される。(読売静岡B版5/31)

- 6/ 1 近代日本洋画の150年展於神奈川県立近代美術館(-7/17)。梅原龍三郎《熱海野島別荘》北川民次《メキシコ戦後の図》佐野繁次郎《キリストの親類》《画家の肖像》
- 6/ 1 中森泰吉・中森五三九・青島秋果三人展於静岡扇子屋(-10)。(毎日東部版6/1,読売静岡B版6/2,7,静岡6/2,4)
- 6/ 郷倉千鞠門下日本画六人展於静岡安心堂(-5)。(毎日中部版6/5)
- 6/ 2 「川端龍子と青々居」(静岡6/2)
- 6/ 2 岩田専太郎・宮永岳彦展於静岡松坂屋(-5)。(毎日中部版5/31,朝日駿豆,静岡,遠州版5/31,読売静岡B版6/1,静岡6/4)
- 6/ 6 中村宏個展於東京アズマギャラリー(-19)。
- 6/ 青美会第9回展於熱海長崎屋(-12)。(静岡6/11)
- 6/11 朝倉文夫遺作展於静岡安心堂(-15)。(静岡6/9,11,朝日駿豆,静岡,遠州版6/12)
- 6/ 青島秋果陶芸展於静岡扇子屋(-20)。(静岡6/16,読売静岡B版6/14)
- 6/ 佐々木栗軒南画展於清水戸田書店(-19)。(静岡6/18)
- 6/14 水野欣三郎《殉職消防士顕彰碑》除幕式於浜松五社公園。(中日遠州版2/27,6/15,静岡3/3,朝日駿豆,静岡,遠州版4/9)
- 6/16 県美術家連盟第3回展於県民会館(-19)。(朝日静岡版5/24,6/1,静岡6/11,16,18)
- 6/ 重岡建治《はばたきの像》除幕式於伊東商業高校。(朝日駿豆,静岡,遠州版6/17)
- 6/21 県版画協会第31回展於県民会館(-25)。(静岡6/21,22,23,読売静岡B版6/23)
- 6/21 日本現代版画秀作展於県民会館(-25)。(朝日駿豆,静岡,遠州版6/19,静岡6/21,23,25,毎日中部版6/22)
- 6/ マザーアート第1回展於静岡扇子屋(-30)。(毎日中部版6/24,静岡6/28)
- 6/22 「小川龍彦 人物往来」(静岡6/22テレビ欄)
- 6/23 松本竣介回顧展於静岡小谷画荘(-27)。(静岡6/23,25朝日駿豆,静岡,遠州版6/26)
- 6/26 岩田正巳・寺島紫明・望月春江展於静岡安心堂(-30)。(毎日中部版6/28)
- 6/28 増田大罇オマハと中南米スケッチ展於県民会館(-7/3)。(朝日駿豆,静岡,遠州版6/26,静岡6/28,30,読売静岡B版6/28,29,7/2)
- 6/28 吉野不二太郎油絵近作展於静岡産業会館(-7/1)。(静岡6/28,29,30,毎日中部版6/28,読売静岡B版6/28,29,30)
- 6/28 松岡圭三郎古稀記念展於静岡小谷画荘(-7/3)。(静岡6/27,30,毎日中部版6/28,朝日静岡版6/28)
- 6/28 遠州美術第10回展於浜松松菱(-7/3)。(浜松民報5/18,24,6/25,30,毎日西部版6/28,中日遠州版6/29)
- 6/ 冬木徹個展於沼津静岡新聞沼津支局(-7/5)。(静岡7/2,5)
- 6/ 『曾宮一念作品集』刊行。(浜松民報3/12)
- 6/30 「水野欣三郎」(中日遠州版6/30)
- 7/ 《岡野喜太郎胸像》設置於沼津市役所。(沼津朝日5/15,6/10,28,黎明5/15,沼津毎日6/29)
- 7/ 志水晴児、沼津市役所前彫刻設置。(沼津朝日6/10)
- / 稲葉治夫壁画沼津市役所。(沼津朝日S42.2/8)
- 7/ 1 グループ「幻触」展於東京ギャラリー創苑(-10)。(静岡7/7)
- 7/ 1 岡本太郎《太陽の鐘》初打ち式於韭山富士見ランド。(朝日駿豆,静岡,遠州版7/3)
- 7/ 1 土橋妙子・奥田八重子二人展於静岡扇子屋(-10)。(静岡7/2,5,9,読売静岡B版7/5,9)
- 7/ 杉山有個展於静岡谷島屋書店(-6)。(静岡7/3)
- 7/ 9 県写真サロン第11回展於県民会館(-14)。(朝日駿豆,静岡,遠州版4/9,6/1,3,14,18,19,20,21,23,24,28,30,7/3,7,10)
- 7/10 平井俊男小品展於清水戸田書店(-17,18-24)。(毎日中部版7/10,静岡7/18,朝日静岡版7/20)
- 7/11 藤野嘉市油絵個展於静岡扇子屋(-20)。(静岡7/12,読売静岡B版7/12)
- 7/12 北川民次・我妻碧宇余技展於名古屋松坂屋(-17)。
- 7/12 袴田猪太郎個展於浜松松菱(-17)。(浜松民報7/13,16,朝日遠州版7/13,静岡7/14)
- 7/ 奥村土牛・酒井三良・辻中展於静岡安心堂(-17)。(毎日中部版7/14,静岡7/16)
- 7/13 井上恒也日本画展於東京三越(-17)。(朝日7/12)
- 7/17 屋外彫刻第1回展於堂ヶ島(-24)。(静岡7/19)
- 7/18 北川民次・加藤霞仙二人展於大阪淀画廊(-25)。

- 7/20 北野熊雄展於浜松松菱(-24)。
(中日遠州版7/20, 浜松民報7/26)
- 7/21 海野光弘・杉山栄次郎版画二人展於静岡扇子屋(-31)。(静岡7/26, 読売静岡B版7/26, 28)
- 7/21 石子順造企画展於東京ギャラリー創苑(-30)。
- 8/ 1 河原宏個展於静岡扇子屋(-10)。(静岡8/2, 6, 読売静岡B版8/3, 10, 毎日中部版8/4)
- 8/ 2 浜松彫刻研究グループ第1回展於浜松松菱(-6)。
(浜松民報8/3, 静岡8/4)
- 8/ 5 クリフトン・コルテバ来清。(朝日静岡版8/6)
- 8/ 5 横山大観展於静岡安心堂(-10)。(清美協no.51)
- 8/ 9 木梨素彦展於静岡しずおかショップ(-15)。
(読売静岡B版8/9, 11)
- 8/10 国際写真サロン第26回展於静岡田中屋(-15)。
(朝日静岡版8/10)
- 8/11 池田正司水彩画展於清水戸田書店(-19)。
(静岡8/12, 毎日中部版8/12, 13, 朝日静岡版8/13, 読売静岡B版8/13, 清美協no.51)
- 8/16 小林古径・安田朝彦・前田青邨展於安心堂(-21)。
(読売静岡B版8/19, 静岡8/20, 清美協no.51)
- 8/17 長嶋泰典個展於東京おぎくぼ画廊(-22)。
- 8/18 沢村美佐子近作小品展於東京東金堂ギャラリー(-31)。(朝日8/16)
- 8/21 山田安油絵個展於静岡扇子屋(-30)。(静岡8/23)
- 8/22 太田昭・長尾忠之二人展於清水伏見文具店(-28)。
(静岡8/26, 27, 清美協no.51)
- 8/23 山下邦太郎・山下太郎・山下邦雄展於浜松松菱(-28)。(朝日駿豆, 静岡, 遠州版8/26, 浜松民報8/28)
- 8/26 第10回シェル美術賞展於東京白木屋(-31)。
鈴木慶則受賞。中村宏出品。
- 9/ 1 第51回二科展於東京都美術館(-20)。
北川民次《食後》(静岡9/16)
杉山邦彦他、新入選者。(清美協no.53, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版8/28, 静岡8/29)
- 9/ 1 第51回院展於東京都美術館(-20)。
中島多茂都《妙義山(夏)(秋)》
- 9/ 1 県水彩画協会第16回展於県民会館(-5)。
(静岡8/30, 9/2, 3, 読売静岡B版9/1, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版9/2)
- 9/ 1 柴田俊個展於静岡扇子屋(-10)。(毎日中部版9/1, 静岡9/2, 3, 読売静岡B版9/7, 清美no.52)
- 9/ 2 仲山進作彫金個展於浜松大和銀行(-6)。
(浜松民報9/6, 毎日西部版9/6)
- 9/ 8 山下清作品展於伊東市観光会館(-11)。
(静岡9/6, 10, 朝日駿豆, 静岡版9/7)
- 9/ 8 青野裕彦小品展於清水戸田書店(-14)。
(静岡9/13, 清美協no.52)
- 9/11 高柳千賀子モード素描展於静岡扇子屋(-20)。
(静岡9/13, 毎日中部版9/13)
- 9/12 鈴木慶則個展於清水花菱(-17)。(清美協no.52)
- 9/ 川合修二作陶展於静岡安心堂(-15)。
(毎日中部版9/13)
- 9/15 サロン・ド21世紀協会小品展於清水戸田書店(-21)。
(静岡9/20, 朝日静岡版9/21, 清美協no.52)
- 9/15 江崎浮山写真展於新静岡センター(-21)。
(毎日東, 中部版9/1)
- 9/19 土井俊泰展於東京いとう画廊(-24)。
- 9/ 橋本明雄・森賢之助二人展於富士宮市民会館(-25)。(静岡9/24)
- 9/20 堤達男《太田道灌像》除幕式於熱川温泉。(毎日東, 中, 西部版6/25, 朝日駿豆版9/16)
- 9/21 望月康男沖縄作品展於静岡扇子屋(-30)。
(静岡9/20, 24, 毎日中部版9/20, 読売静岡B版9/21, 30, 朝日静岡版9/29)
- 9/22 第30回新制作展於東京都美術館(-10/10)。
秋野不矩《壁》出品。
- 9/22 第12回一陽会展於東京都美術館(-10/10)。
安藤節雄、特別賞受賞。(静岡9/23, 10/4)
- 9/23 グループ「幻触」主催現代美術講演会於県民会館。
講師: 石子順造・高松次郎。(静岡9/20)
- 9/26 藤本東一良個展於東京日動サロン(-10/1)。
(朝日9/28)
- 9/27 稲葉泰樹スケッチ展於沼津丸運ビル(-19)。
(沼津朝日9/18)
- 9/27 久保田光亭ガラス絵小品展於静岡産業会館(-10/1)。(静岡9/24, 読売静岡B版9/27, 28, 29, 毎日中部版9/30)
- 9/27 六灯会第10回展於浜松松菱(-10/2)。(浜松民報9/26, 10/5, 毎日西部版9/27, 中日遠州版9/27)
- 9/28 ジャクー・アレー水墨画展於静岡安心堂(-10/2)。
(静岡9/29)
- 9/28 サロン・ド21世紀協会展於静岡産業会館(-10/2)。

- (静岡9/9, 30, 読売静岡B版9/29, 清美協no.52, 53)
- 10/ 1 佐野和夫展於清水戸田書店(-7)。(静岡10/1, 朝日静岡版10/1, 読売静岡B版10/6, 清美協no.52)
- 10/ 1 鷺坂博規・鷺坂せつ子作品展於静岡扇子屋(-10)。(静岡10/7, 朝日静岡版10/7)
- 10/ 1 武蔵野美術大学校友会静岡支部展於県民会館(-8)。(毎日中部版9/30, 朝日静岡版9/30, 静岡10/1, 4)
- 10/ 1 近代絵画100人展於大阪松坂屋(-9, 11-16)。
中村岳陵《気球揚がる》川村清雄《素戔鳴尊》
- 10/ 1 池田周司展於浜松彩画堂(-7)。(浜松民報10/4, 中日遠州版10/4)
- 10/ 3 ヨシダ・ヨシエ講演会於清水市青少年会館。
- 10/ 4 伊藤勉個展於静岡産業会館(-6)。(静岡10/1, 4, 毎日中部版10/4, 読売静岡B版10/5, 6)
- 10/ 4 坂井英八郎油絵個展於沼津富士急(-9)。
(沼津朝日10/2)
- 10/ 新槐樹社静岡支部第8展於県民会館(-8)。(静岡10/4, 読売静岡B版10/5, 朝日静岡版10/6)
- 10/ 7 富田衛司・犬塚友吉・井上市三郎展於東京村松画廊(-10)。(浜松民報10/6)
- 10/ 8 石原秋男油絵個展於清水戸田書店(-13)。
(毎日中部版10/11, 清美協no.53)
- 10/10 清水秀伸展於浜松松菱(-16)。(浜松民報10/14)
- 10/11 足久保潔・巻本辰夫二人展於静岡扇子屋(-20)。
(毎日中部版10/13, 静岡10/15, 18)
- 10/ 現代洋画大家近作第20回展於静岡吉見書店(-17)。
(毎日中部版10/11)
- 10/12 第34回独立展於東京都美術館(-30)。
沢村美佐子《形態・マスク》《形態・トリ》土井俊泰
《作品》《作品》山道栄助《66作品SY》《66作品SE》
新入選者(読売静岡B版10/10, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版10/12)
- 10/12 第20回二紀会展於東京都美術館(-30)。
佐野繁次郎《郵便配達》《少年》水野欣三郎《同根》
《ローマ》(日本美術年鑑S.42)
入選者。(中日遠州版10/9)
- 10/12 第30回自由美術展於東京都美術館(-30)。
新入選者。(朝日駿豆, 静岡, 遠州版10/12)
- 10/13 美術人第5回展於熱海長崎屋(-16)。
(毎日東部版10/11, 静岡10/14, 15)
- 10/13 杉山青樹路油絵個展於静岡谷島屋書店(-19)。
(静岡10/8, 14, 読売静岡B版10/12, 18, 19)
- 10/14 坂井由利個展於清水戸田書店(-19)。(毎日中部版10/11, 静岡10/14, 15, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版10/14, 清美協no.53)
- 10/14 清水久明洋画展於沼津市文化会館(-16)。(沼津朝日10/12, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版10/14)
- 10/ 静岡風景展於県民会館(-22)。(毎日中部版10/19)
- 10/18 写実派協会第24回展於静岡吉見書店(-23)。(静岡10/14, 15, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版10/15, 読売静岡B版10/18, 毎日中部版10/18)
- 10/19 第5回国際形象展於東京三越(-30)。
北川民次《陶工たち》《風景》山下充《巴里の祭り》
《ビュイ・フランシュ》
- 10/19 吉本石竜子水墨小品展於沼津東電サービスセンター(-23)。(沼津朝日10/18, 沼津毎日10/18)
- 10/ 兵藤和男展於浜松彩画堂(-29)。
(浜松民報10/27)
- 10/25 竹内重行展於浜松松菱(-30)。(浜松民報10/27)
- 10/28 村田徳次郎《ペリー艦隊来航記念碑》除幕式於下田。
(読売静岡B版10/29*, 毎日東部版10/29, 静岡11/3*, S43.6/22)
- 10/30 梶野良子展於浜松彩画堂(-11/3)。
(毎日西部版10/26, 浜松民報10/27)
- 10/ 七丈南豊個展於静岡産業会館(-4)。(静岡11/1, 毎日中部版11/1, 2, 読売静岡B版11/4)
- 11/ 1 第9回日展於東京都美術館(-12/6)。
青島淑雄《保名》野島青茲《群舞》漆畑廣作《白毫》
藤本東一良《琉球の舟》澤田政廣《救世に立ちあがる釈迦》
杉本宗一《羅漢》館野親光《裸婦》堤達男《潮の歌》
平野敬吉《めぐりあい》和田金剛《剣神》
入選者。(中日遠州版10/26, 毎日東, 中, 西部版10/27, 静岡11/5, 18)
- 11/ 1 静大彫塑部第1回展於静岡小谷画荘(-5)。
(静岡11/1)
- 11/ 1 杉山照治・杉山瑛子展於静岡扇子屋(-10)。
(静岡11/1, 5, 読売静岡B版11/3, 9)
- 11/ 1 郷土画家名品展於浜松市立博物館(-13)。
(浜松民報10/20, 11/2)
- 11/ 1 浜松工芸グループ第1回展於浜松商工会議所(-6)。
(中日遠州版11/2)

- 11/ 中山泰山遺作展於伊東市観光会館(-6)。
(静岡11/5)
- 11/ 現代日本画小品展於静岡松坂屋(-13)。(毎日中部版11/1, 読売静岡B版11/3, 9, 静岡11/5)
- 11/ 3 杉本宗一、知事表彰。(静岡10/25, 11/3)
- 11/ 6 紅人舎第8回日本画展於静岡小谷画荘(-13)。(朝日静岡版11/4, 毎日中部版11/5, 静岡11/5, 11)
- 11/ 9 飯田昭二個展於東京おぎろぼ画廊(-14)。
- 11/ 9 アルファアート第1回展於浜松市民会館(-15)。
(浜松民報11/11, 中日遠州版11/11, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版11/12, 毎日西部版11/13)
- 11/ 9 鈴木静邨陶芸展於静岡産業会館(-13)。
(静岡11/5, 12, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版11/9, 読売静岡B版11/9, 10, 毎日中部版11/11)
- 11/10 選抜三島美術展於三島市公会堂(-13)。
(三島民報10/25)
- 11/11 佐野美術館開館。(三島民報S39.7/20, 8/5, 15, S40.2/15, 10/5, 10, 12/5, S41.2/20, 5/30, 10/20, 11/10, 15, S42.12/15, 静岡S40.2/11, 6/14, 10/7, S41.11/4, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版S40.2/11, S41.11/16, 読売静岡B版S40.2/11, 毎日東部版S40.2/11, 11/2, S41.7/14, 11/11, 三島ニュースS40.2/14, 10/10, S41.10/2, 16, 11/6, 13, 沼津6/15)
- 11/11 県芸術祭第6回展於清静岡センター・県民会館(-20)。審査員:難波田龍起、三雲祥之助、荒谷真之助、吉田政次、清水多嘉示、鈴木三朝、般若侑弘、手島右卿。(静岡7/10, 11/12, 16, 22, 読売静岡B版7/20, 11/16, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版11/13, 沼津毎日11/15, 中日遠州版11/16)
- 11/11 木梨素彦個展於静岡扇子屋(-20)。(読売静岡B版11/11, 16, 19, 静岡11/12, 15, 毎日中部版11/12)
- 11/15 佐藤蕪堂展於浜松松菱(-20)。
(中日遠州版11/16, 浜松民報11/21)
- 11/16 野田好子展於東京サエグサ画廊丸の内店(-26)。
(朝日11/15)
- 11/18 行動美術協会展於浜松市民会館(-24)。(中日遠州版11/2, 4, 6, 毎日西部版11/11, 浜松民報11/11, 22, 朝日遠州版11/18, 静岡11/19)
- 11/19 大沼貞夫展於三島田代グリラ(-23)。
(三島ニュース11/20)
- 11/20 保坂昌男個展於静岡扇子屋(-31)。
(静岡11/22, 26)
- 11/23 三行舎展於浜松商工会議所(-24)。
(毎日西部版11/22, 浜松民報11/25)
- 11/29 秋野不矩日本画小品展於浜松松菱(-12/4)。
(浜松民報11/30, 中日遠州版11/30)
- 12/ 1 今沢司郎・大高浩版画二人展於静岡扇子屋(-10)。(静岡12/6, 読売静岡B版12/8)
- 12/ 1 日展彫刻部役員8名、来沼。(沼津朝日11/30)
- 12/ 4 第5回東京国際版画ビエンナーレ展於東京国立近代美術館(-S42.1/22)。(静岡12/20)
北川民次《グロキシニア》《二人の女の顔》《陶工》
- 12/ 今沢司郎展於静岡谷島屋(-9)。(静岡12/3, 6)
- 12/ 5 村松茂男小品展於清水戸田書店(-11)。(毎日中部版12/3, 4, 朝日静岡版12/4, 静岡12/10, 清美協no.55)
- 12/ 5 芹沢晋吾近作油絵小品展於沼津東電サービスセンター(-11)。(静岡12/3, 10, 朝日駿豆版12/6)
- 12/ 内田公雄展於沼津丸運ビル(-13)。
(朝日駿豆版12/11)
- 12/11 上坂浩通小品展於静岡扇子屋(-20)。(読売静岡B版12/10, 13, 17, 静岡12/13, 17, 朝日静岡版12/15)
- 12/13 伊藤勉「山口源」山口源《壇》(1966年)
(静岡12/13)
- 12/14 斎藤真一展於東京青木画廊(-26)。
- 12/14 松村真佐子個展於静岡産業会館(-17)。
(静岡12/10, 読売静岡B版12/14, 15, 16)
- 12/16 「県文化の一年」回顧座談会。(静岡12/16)
- 12/19 村松修治個展於清水戸田書店(-25)。
(毎日中部版12/4, 清美協no.55)
- 12/21 村田収・樽松貞雄・斉藤馨三人展於静岡扇子屋(-30)。(朝日静岡版12/25, 静岡12/27, 読売静岡B版12/27, 毎日東, 中部版12/30)
- 12/23 静岡県文化振興協議会発足。
(毎日東, 中部版12/24)
- 12/ 平井俊男展於清水山口楽器店(-S42.1/31)。
(朝日静岡版12/27)
- 12/27 尾形月山逝去。78歳。(毎日東部版12/28)
- 1967 昭和42年**
- 1/ 1 福田平八郎《鳥と竹》(静岡1/1)
- 1/ 1 新春作品展第9回展於静岡扇子屋(-31)。
(静岡1/6, 14, 21, 28, 読売静岡B版1/11, 12)

- 1/ 1 平井俊男個展於清水戸田書店(-11)。
(朝日静岡版1/6, 清美協no.56)
- 1/ 河西賢太郎水彩小品展於静岡小谷画荘(-15)。
(静岡1/13,14)
- 1/12 真田正近作展於清水戸田書店(-18)。
(静岡1/17, 清美協no.56)
- 1/12 吉野不二太郎展於静岡谷島屋書店(-18)。
(朝日静岡版1/12, 読売静岡B版1/12)
- 1/14 静岡県戦後受賞作品招待展於県民会館(-2/6)。
(静岡1/17, 2/3)
- 1/14 浜松美術連盟第1回展於浜松市民会館(-22)。
(浜松民報1/16,17,20,25)
- 1/14 抽象絵画を語る会於清水商業高校。
(毎日中部版1/12, 清美協no.56)
- 1/16 堤達男《斉藤平三郎銅像》除幕式於大昭和富士工場。(静岡1/17)
- 1/16 森正一油絵小品展於静岡小谷画荘(-22)。(静岡1/17,21,朝日静岡版1/17読売静岡B版1/18)
- 1/ 松木寿雄個展於下田邪宗門(-31)。
(静岡1/21, 28)
- 1/ 大石・石川二人展於浜松松菱(-22)。(静岡1/21)
- 1/20 堤達男《草原をかける男》完成於亀石峠。(毎日東部版S41.12/17, 静岡S41.12/20)
- 1/ 春田光影写真展於清水戸田書店(-26)。
(静岡1/21)
- 1/30 中村宏個展於東京青木画廊(-2/13)。(朝日1/31)
- 1/31 鈴木篤・久保田光亭水墨画展於静岡産業会館(-2/3)。(静岡1/28, 2/1)
- 2/ 1 サロン・ド21世紀小品展於静岡扇子屋(-10)。
(静岡2/7)
- 2/ 前田守一版画展於静岡小谷画荘(-12)。
(朝日静岡版2/9, 静岡2/10,11)
- 2/ 4 第27回美術文化協会展於東京都美術館(-16)。
入選者。(浜松民報3/1)
- 2/ 5 鈴木新一個展於清水戸田書店(-12)。
(清美協no.57)
- 2/ 7 光風会静岡支部展於県民会館(-11)。
(静岡2/4, 読売静岡B版2/7, 清美協no.57)
- 2/10 中川雄太郎著『静岡県版画史話』刊行。
(読売静岡B版S41.10/7, 静岡2/14)
- 2/10 長谷川富三郎富士讃版画展於沼津イナノ文房具店(-12)。(沼津毎日2/7, 沼津朝日2/10)
- 2/11 レッド・アロー・ショー女性七人新作展於静岡扇子屋(-20)。(静岡2/14, 読売静岡B版2/18)
- 2/13 杉本三男水彩画展於静岡小谷画荘(-26)。
(静岡2/21, 朝日静岡版2/24, 毎日中部版2/25)
- 2/13 ドオミエ風刺画展於浜松ナカムラ画廊(-19)。
(毎日西部版2/10, 静岡2/18)
- 2/13 松浦伸知《賀茂真淵座像》除幕式於浜松県居小学校。(中日遠州版2/7*,14)
- 2/14 「川島貢」(朝日駿豆, 静岡, 遠州版2/14)
- 2/14 大高秀翠・丸山祥雲・望月泰雲三人展於静岡産業会館(-17)。(静岡2/11, 朝日静岡版2/14, 読売静岡B版2/16,17)
- 2/15 原田政太郎・伏見勇二人展於静岡扇子屋(-28)。
(毎日中部版2/23, 静岡2/24, 朝日静岡版2/24)
- 2/15 伊藤敏治, アトリエいのうえ開設。
(静岡3/1, 清美協no.57,58)
- 2/16 月見里シゲル《仏像》ノースウエスト国際版画展於シアトル美術館(-3/19)出品。(毎日静岡版2/3, 朝日静岡版2/3, 読売静岡B版2/7)
- 有坂坂三《仏像》ノースウエスト国際版画展出品。
(朝日静岡版2/3)
- 2/16 むさしの画会第4回於静岡谷島屋書店(-23)。
(毎日中部版2/16, 朝日静岡版2/16 静岡2/18, 読売静岡B版2/18)
- 2/20 小川龍彦、県文化奨励賞受賞。(静岡2/1, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版2/1, 読売静岡B版2/1, 毎日東, 中, 西部版2/21)
- 2/ 第11回新槐樹社展於東京都美術館(-3/2)。
入選者発表。(静岡2/21)
- 2/21 前田守一版画展於清水戸田書店(-28)。
(朝日静岡版2/17, 静岡2/18, 読売静岡B版2/18, 清美協no.57)
- 2/21 鈴木和夫個展於清水戸田書店(-28)。(読売静岡B版2/12, 毎日中部版2/19, 朝日静岡版2/19, 静岡2/20,24, 清美協no.57,58)
- 2/25 プレッソン写真展於静岡田中屋(-3/5)。
(静岡2/8,18,24,25,28, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版2/19, 25,26,3/5)
- 2/27 佐藤道功個展於静岡小谷画荘(-3/5)。
(毎日東, 中, 西部版2/27, 3/21)

- 2/28 一ノ瀬昌堂書作品展於静岡産業会館(-3/3)。
(静岡2/25, 3/3, 読売静岡B版2/28)
- 2/ 曾宮一念『東京回顧』刊行。(浜松民報2/16)
- 3/ 1 河野修治個展於静岡扇子屋(-10)。(毎日中部版3/1, 朝日静岡版3/1, 中日静岡版3/1, 読売静岡B版3/2, 静岡3/3)
- 3/ 飯田昭二個展於静岡小谷画荘(-12)。
(静岡3/10, 11)
- 3/ 4 芹沢銈介、静岡市名誉市民の称号を贈られる。(静岡3/5, 毎日東, 中, 西部版3/5, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版3/5)
- 3/ 6 島田市民会館落成。(朝日静岡版3/2, 5/10, 静岡3/6, 中日静岡版3/6)
- 3/11 小林洋子個展於静岡扇子屋(-20)。(静岡3/14, 18, 読売静岡B版3/14, 毎日中部版3/16)
- 3/14 鈴木福富・桜井琴風二人展於静岡産業会館(-17)。
(静岡3/11, 朝日静岡版3/15)
- 3/17 飯田昭二「地方美術」と作家主体
(静岡3/17)
- 3/18 第19回三軌会展於東京都美術館(-31)。
市川正三新人賞受賞。
- 3/18 備前の名刀展於佐野美術館(-8/20)。
(三島民報3/25)
- 3/20 形象派美術展於県民会館(-25)。
(静岡3/18, 23, 24, 朝日静岡版3/22, 読売静岡B版3/23, 25, 中日静岡版3/23)
- 3/21 伊東万耀展於静岡安心堂(-26)。
(朝日静岡版3/21, 静岡3/24)
- 3/ 望月鏡一・梅原秀雄二人展於静岡扇子屋(-31)。
(中日静岡版3/24, 静岡3/27)
- 3/22 曾宮一念陶板と素描淡彩展於東京現代画廊(-4/1)。(朝日3/27)
- 3/23 宮脇愛子個展於東京画廊(-4/8)。
(朝日3/27, 毎日4/7, 読売4/7)
- 3/28 岡本巧・白井美知也・森島利弥・玉内和男四人展於浜松松菱(-4/2)。(静岡3/24)
- 3/ 堤達男《土屋余三・依田勉三・依田佐二平》レリーフ於松崎中川小。(静岡S43.9/1)
- 4/ 1 山田安油絵小品展於静岡扇子屋(-7)。
(静岡4/3, 毎日中部版4/5, 朝日静岡版4/5, 読売静岡B版4/6)
- 4/ 大石靖色紙展於沼津上土センター街(-9)。
(沼津毎日4/1, 沼津朝日4/4, 黎明4/4, 朝日駿豆版4/7)
- 4/ 池田正司『興津ふるさと物語』刊行。
(朝日静岡版4/5)
- 4/ 3 韭山町立郷土資料館開館。(静岡4/4)
- 4/ 4 佐野丹丘書作展於沼津富士急(-9)。(沼津朝日4/4, 黎明4/4, 毎日東部版4/5, 朝日駿豆版4/8)
- 4/ 4 地上に平和を展於静岡田中屋(-10)。
(朝日駿豆, 静岡, 遠州版4/6)
- 4/ 6 現代日本版画展於新静岡センター(-15)。
新静岡センター5階に美術サロン開設。(毎日中部版4/7, 静岡4/14)
- 4/ 6 杉山良雄伊那街道スケッチ展於県民会館(-8)。
(静岡4/3)
- 4/10 熱海市民文化会館開館。村田省蔵作品寄贈される。
(伊豆毎日4/4)
- 4/11 杉山吉良写真展於東京富士フォトサロン(-20)。
(朝日4/10)
- 4/11 「下岡蓮杖」(毎日東, 中, 西部版4/11)
- 4/13 飯田昭二「マンガによる文明論: 石子順造著『マンガ芸術論』」(静岡4/13)
- 4/13 第15回日彫展於東京都美術館(-5/2)。
浅井行雄《裸婦立像》澤田政廣《夢絃》重岡建治《Tの首》下山昇《愛犬ポッポ》堤達男《木枯らしの頃》飛岡文一《プールデル夫人》平野敬吉《反求》平馬学《嘶》和田金剛《神牛》(出品目録)
- 4/ 鈴木福富ろう染展於静岡扇子屋(-21)。(静岡4/17, 朝日静岡版4/19, 読売静岡B版4/20, 21)
- 4/15 静岡創型会彫塑第11回展於県民会館(-19)。
(静岡4/14, 朝日静岡版4/18)
- 4/15 内田正男個展於県民会館(-19)。(静岡4/14)
- 4/17 第4回国際青年家美術展於県民会館(-20)。
(朝日静岡版4/13, 20, 静岡4/14, 17 読売静岡B版4/15)
- 4/18 大井碧水個展於静岡産業会館(-20)。
(静岡4/13, 17, 朝日静岡版4/16, 読売静岡B版4/18, 中日静岡版4/18)
- 4/ 渡辺雷三スケッチ展於沼津丸運ビル(-25)。
(読売静岡B版4/23)
- 4/22 第41回国画会展於東京都美術館(-5/8)。
青木達

- 弥《古寺》渋川栄志《遊猫》伊藤勉《蒼原》栗山茂
《生物詩》山口源《芽》芹沢銈介《着物津村四季》
- 4/22 第44回春陽会展於東京都美術館(-5/8)。広野殷生
《北原の雪景》《春雪》小栗哲郎《大和田みかん山》
新入選者。(朝日駿豆,静岡版4/20)
- 4/22 光風会展於県民会館(-29)。(静岡4/21,24,読売静
岡B版4/23,25,27)
- 4/23 吉川勝絵画展於清水戸田書店(-5/1)。
(静岡5/1,清美協no.59)
- 4/23 花村秀晴小品展於静岡扇子屋(-28)。
(静岡4/24,読売静岡B版4/27)
- 4/25 志賀旦山・小堀稜威雄・成瀬憲三人展於沼津富
士急(-27)。(黎明4/20,沼津朝日4/22)
- 4/25 仲安・野坂二人展於浜松松菱(-30)。
(静岡4/21,毎日西部版4/25)
- 4/30 小林義司油絵個展於静岡扇子屋(-5/5)。
(静岡5/1,毎日中部版5/3)
- / 勅使河原蒼風作彫像設置於静岡大学工学部。
(朝日遠州版5/3)
- 5/ 多々良勝博絵画展於静岡小谷画荘(-13)。(毎日中
部版5/9,朝日静岡版5/10,読売静岡B版5/11,
静岡5/12)
- 5/ 2 松風会展於静岡松坂屋(-7)。(静岡5/2)
- 5/ 2 碧第10回展於浜松松菱(-7)。
(毎日西部版5/2,朝日遠州版5/2)
- 5/ 9 人間国宝新作展於静岡松坂屋(-14)。(中日静岡版
5/1,毎日東,中,西部版5/5,9,10,静岡5/12,読売静
岡B版5/13)
- 5/ 9 緑青会第3回展於浜松松菱(-14)。(浜松民報5/6,
朝日遠州版5/9,中日遠州版5/9)
- 5/ 9 三浦巖水彩画展於静岡松坂屋(-14)。
(中日静岡版5/9,朝日静岡版5/10,静岡5/12)
- 5/10 第9回日本国際美術展於東京都美術館(-30)。
北川民次《瀬戸風景》上田臥牛《冬樹》佐野繁次郎
《太陽と人間》(美術年鑑S.43*,静岡5/18)
- 5/12 現代巨匠作品展於東京八重洲大丸(-17)。
中村岳陵《返照》
- 5/12 静流会第21回展於沼津市文化会館(-14)。
(沼津4/12,沼津朝日4/28,5/13,沼津毎日5/11,黎
明5/13)
- 5/13 富士宮美術クラブ第1回展於富士宮市公民館
(-14)。(読売静岡B版5/13)
- 5/13 長谷川栄一水彩画展於静岡扇子屋(-19)。
(中日静岡版5/14,静岡5/15)
- 5/14 栗田博光個展於清水戸田書店(-19)。
(静岡5/12,朝日静岡版5/13,清美協no.60)
- 5/16 壮炎会展於浜松市民会館(-21)。
(毎日西部版5/14,静岡5/19,浜松民報5/19)
- 5/16 吉崎京一・佐藤敬二人展於浜松松菱(-21)。
(静岡5/12,19,浜松民報5/16)
- 5/17 県美術家連盟第4回展於県民会館(-21)。(静岡
5/12,17,19,読売静岡B版5/16,17,18,毎日中部版
5/19)
- 5/17 ぼこ・あ・ぼこ絵画展於静岡産業会館(-19)。
(静岡5/12,読売静岡B版5/18)
- 5/ 獺黙庵子(田中武)『旅情点描』出版。(沼津朝日
5/20,黎明5/20,沼津毎日5/20,沼津5/24)
- 5/ 山崎光洋陶芸展於新静岡センター(-25)。
(静岡5/19,23)
- 5/18 熱海市美術連盟発足記念展於熱海観光会館(-21)。
(伊豆毎日5/2,9,19,静岡5/12)
- 5/20 近代日本の版画展於東京国立近代美術館(-6/18)。
山口源《防空壕のおとぎばなし》《邂逅》北川民次
《紫の花》出品。
- 5/20 長沢脩而沼津四十景色紙展於沼津元栄屋跡
(-21)。(沼津毎日5/16,25,黎明5/17,沼津朝日5/25)
- 5/20 早川実展於清水戸田書店(-26)。
(中日静岡版5/19)
- 5/20 長岡宏個展於静岡吉見書店(-25)。(朝日静岡版
5/20,静岡5/22,読売静岡B版5/24)
- 5/20 加田裕子版画展於静岡扇子屋(-31)。(静岡5/22,
朝日静岡版5/24,毎日中部版5/24,読売静岡B版
5/25,27)
- 5/21 木下伝三郎《いずみ[女神像]》設置於三島駅前。
(三島民報5/25,三島ニュース5/28)
- 5/22 伊藤勉「現代の美は別のところにある」
(静岡5/22)
- 5/23 浜松自由美術グループ展於浜松商工会館(-28)。
(毎日西部版5/27,浜松民報6/1)
- 5/23 インター・メディア於東京ルナミ画廊(-29)。
斎藤司郎、鈴木慶則出品。
- 5/ 江口忠《小泉八雲レリーフ》除幕於焼津駅前。

- (静岡S41.8/20,9/15,S42.3/23*,中日静岡版3/28*)
- 5/ 浜松美術連盟色紙小品展於浜松松菱(-4)。
(朝日駿豆,静岡,遠州版5/31,浜松民報6/1,静岡6/2)
- 6/ 井出栄個展於富士文華堂(-7)。
(朝日駿豆版6/4)
- 6/ 1 木梨素彦創作写真展於静岡扇子屋(-10)。
(中日静岡版5/30,朝日静岡版5/31,読売静岡B版6/1,6,静岡6/2,8)
- 6/ 3 「県民会館はだれのもの?」(毎日東,中,西部版6/3)
- 6/ 6 県写真サロン第11回展於県民会館(-24)。(朝日駿豆,静岡,遠州版3/19,5/31,6/1,2,3,4,5,6,7,8,9,11,中日静岡版6/1,静岡6/9,26,23)
- 6/ 8 池田正司『興津ふるさと物語』原画展於清水戸田書店(-14)。(静岡6/6,9,毎日中部版6/10,清美協no.61)
- 6/11 平野敬吉《林東樹胸像》、像主に寄贈される。
(静岡6/12)
- 6/ 藤野嘉市油絵個展於静岡扇子屋(-20)。(毎日中部版6/13,静岡6/15,16,朝日静岡版6/16,読売静岡B版6/17)
- 6/13 増田大罇色紙展於静岡産業会館(-15)。
(静岡6/9,12,朝日静岡版6/11,読売静岡B版6/13,中日静岡版6/13)
- 6/17 島田章三・彼末宏・芝田米三 三人展於浜松ナカムラ画廊(-22)。(静岡6/9,16,毎日西部版6/17)
- 6/20 山田安油絵絵画展於静岡産業会館(-22)。
(静岡6/16,毎日中部版6/20,読売静岡B版6/20,中日静岡版6/20)
- 6/21 高柳千賀子クロッキー展於静岡扇子屋(-30)。
(毎日中部版6/20,静岡6/22,23,読売静岡B版6/22)
- 6/22 「沖六鵬(登壇)」(中日静岡版6/22)
- 6/23 「八木利一(登壇)」(中日静岡版6/23)
- 6/24 現代美術を語る会於県民会館。講師:石子順造。
(朝日駿豆,静岡,遠州版6/23)
- 6/ 芹沢銈介近作展於東京ギャラリー吾八(-7/1)。
(朝日6/26)
- 6/27 遠州美術展於浜松松菱(-7/2)。(静岡6/23,29,浜松民報6/27,毎日西部版6/27)
- 6/ 遠藤君雄個展於沼津富士急(-7/2)。
(沼津朝日7/1)
- 6/29 市川正三個展於静岡谷島屋書店(-7/5)。
(朝日駿豆,静岡,遠州版6/30,読売静岡B版7/1,静岡7/3)
- 7/ 伊藤隆史油絵個展於清水戸田書店(-7)。
(静岡7/3,読売静岡B版7/4,清美協no.61)
- 7/ 1 県版画協会第32回展於県民会館(-8)。
(静岡6/1,7/6,7)
- 7/ 1 静岡県の版画-明治百年-展於県民会館(-25)。
(静岡6/1,7/6,7,14,21,朝日駿豆,静岡,遠州版6/30,中日静岡版7/6,読売静岡B版7/13,20)
- 7/ 1 奥田八重子小品展於静岡扇子屋(-10)。(朝日駿豆,静岡,遠州版6/30,静岡7/3,7,中日静岡版7/1,読売静岡B版7/4)
- 7/ 1 多々良勝博展於静岡小谷画荘(-6)。
(朝日駿豆,静岡,遠州版6/30)
- 7/ 望月陸堂展於静岡産業会館(-4)。
(毎日中部版7/1,静岡7/14)
- 7/ 5 年輪会第1回展於東京竹川画廊(-11)。
(静岡7/6)
- 7/ 6 杉山良雄秋葉街道スケッチ展於新静岡センター(-12),於水窪山の家(8/12-14),於菊川内田小(10/6-8)。(静岡7/3,7,静岡9/29)
- 7/ 7 井上恒也日本画展於東京三越(-11)。
- 7/ 7 現代美術の動向展於京都国立近代美術館(-8/13)。(宮脇愛子《作品(Work)2》)
- 7/ 8 真田正・前沢道雄二人展於清水戸田書店(-16)。
(読売静岡B版7/15,清美協no.62)
- 7/ 9 浜松美術連盟講演会於浜松市民会館。講師:土方定一。(朝日駿豆,静岡,遠州版7/7,浜松民報7/7)
- 7/ 青島秋果陶芸展於静岡扇子屋(-20)。
(中日静岡版7/12,静岡7/13,朝日駿豆,静岡,遠州版7/14)
- 7/11 竹内重行展於浜松松菱(-16)。
(浜松民報7/12,17)
- 7/12 北川恵子油絵個展於静岡小谷画荘(-16)。
(中日静岡版7/12,読売静岡B版7/13,朝日駿豆,静岡,遠州版7/14)
- 7/13 朝倉文夫遺作展・伊東深水名作展・日本巨匠近作展於沼津富士急(-16)。(静岡7/6,14,毎日東部版7/11,14)
- 7/15 近代日本画の150年展於神奈川県立近代美術館

- (-8/27)。中村岳陵《流紋》《緑影》太田聰雨《二河白道を描く》
- 7/15 稲葉治夫作品展於沼津市公会堂(-19)。(沼津朝日7/12,16,沼津毎日7/12,黎明7/12,18,静岡7/14,朝日駿豆,静岡,遠州版7/14,沼津7/14,15,静岡7/14)
- 7/ 藤井燈志子展於新静岡センター(-22)。(静岡7/21,朝日駿豆,静岡,遠州版7/21)
- 7/17 井出信次個展於清水戸田書店(-23)。(朝日駿豆,静岡,遠州版7/14,読売静岡B版7/16)
- 7/18 クリフトン・コレテバ来清。(毎日東,中部版7/19,12/7)
- 7/19 古田晴久個展於浜松松菱(-23)。(浜松民報7/11,毎日西部版7/13,静岡7/21,朝日駿豆,静岡,遠州版7/21)
- 7/ 秋山浩薫染色展於静岡扇子屋(-31)。(静岡7/24)
- 7/24 月見里シゲル個展於清水戸田書店(-31)。(静岡7/24,朝日駿豆,静岡,遠州版7/28,清美協no.62)
- 7/27 大石靖展於富士宮市立公民館(-30)。(静岡7/27)
- / 河原宏個展。(静岡8/3)
- / 松浦伸知《賀茂真淵像》於県居神社。(浜松民報7/26,8/7,中日静岡版7/29*)
- 8/ 1 県善三郎個展於浜松松菱(-6)。(浜松民報7/26,8/7,朝日駿豆,静岡,遠州版7/28,静岡8/4)
- 8/ 2 二紀会浜松支部展於浜松市民会館(-6)。(毎日西部版8/2,読売静岡B版8/2,9)
- 8/ 2 中川雄太郎版画展於新静岡センター(-11)。(静岡7/31,8/3,4,中日静岡版8/1,読売静岡B版8/2,9)
- 8/ 3 K「美術界の新潮流」(静岡8/3)
- 8/ 7 第2回戦争展於東京日本画廊(-19)。
鈴木慶則出品。
- 8/ 8 清水草舟展於浜松松菱(-13)。(朝日遠州版8/4,静岡8/11)
- 8/ 9 国際写真サロン展於静岡田中屋(-14)。(朝日駿豆,静岡,遠州版8/9,10,静岡8/11)
- 8/ 9 望月睦堂個展於県民会館(-14)。(読売静岡B版8/2,静岡8/4,11)
- 8/11 杉山青樹路油絵個展於静岡扇子屋(-20)。(朝日駿豆,静岡,遠州版8/11,中日静岡版8/11,読売静岡B版8/11,静岡8/14)
- 8/15 女性油絵展於静岡産業会館中電ホール(-18)。(静岡8/11,15,読売静岡B版8/16)
- 8/15 グループ「幻触」展於県民会館(-20)。(静岡8/11,17,18,読売静岡B版8/15)
- 8/ 坂口日出樹展於静岡松坂屋(-20)。(静岡8/17)
- 8/17 石子順造「幻触展を見て」(静岡8/17)
- 8/17 表現の不自由展於東京村松画廊(-22)。
鈴木慶則、斎藤司郎、飯田昭二出品。
- 8/ 蒲原肇版画展於静岡扇子屋(-30)。(中日静岡版8/22,静岡8/24,25)
- 8/ 堅山南風社中展於静岡安心堂(-27)。(毎日中部版8/25)
- 8/22 郷土在住工芸家作品展於新静岡センター(-31)。(朝日駿豆,静岡,遠州版8/17,静岡8/18,25,中日静岡版8/22)
- 8/22 和田三造逝去。享年84。(静岡8/23,24,美術年鑑S.43)
- 8/25 第11回シェル美術賞展於東京白木屋(-30),於京都市美術館(9/3-10)。
鈴木慶則《〈内乱のきざし〉の相貌をおびた非在のタブロー》《裏かえしの相貌をおびた非在のタブロー》2席、《作品前田守一(赤)》《作品(青)》丹羽勝次《作品6707-1》佳作受賞。
鈴木慶則、受賞。(静岡8/17)
- 8/25 県美術家展於吉原市民会館(-27),於浜松市民会館(9/4-7),於島田市民会館(14-17)。(毎日中部版8/25,毎日東部版8/26,毎日西部版9/3,毎日中部版9/13,朝日駿豆,静岡,遠州版8/25,中日遠州版8/21,浜松民報9/12)
- 8/25 太田昭個展於清水戸田書店(-31)。(毎日中部版8/12,29,静岡8/25,28,朝日駿豆,静岡,遠州版8/25,読売静岡B版8/30)
- 8/ 県民会館申込手続改正。(静岡8/28)
- 8/29 大鎌一哉個展於東京秋山画廊(-9/4)。(静岡9/4)
- 8/29 鈴木重種個展於浜松松菱(-9/3)。(静岡8/25,9/1,浜松民報8/28,毎日西部版8/29,中日遠州版8/29,朝日駿豆,静岡,遠州版9/1)

- / 沼津東海電産にて、岡本太郎、柳原義達、向井良吉、建畠覚造、宮田宏平、阿部合成、高木俱、土谷武、伊藤隆康らが制作。(静岡8/29)
- 9/ 1 第52回二科展於東京都美術館(-20)。
北川民次《メキシコ三姉妹》(中日10/2)
入選者(静岡8/30)
- 9/ 1 第52回院展於東京都美術館(-20)。
中島多茂都《双峰》小栗正《女たち》
土橋妙子、入選。(静岡9/4)
- 9/ 1 富士市美術展第1回展於吉原市民会館(-5)。
(毎日東部版8/30)
- 9/ 1 清水市中央公民館開館記念展(-10)。
(静岡S41.2/26, S42.9/8, S43.8/30, 中日静岡版9/2,
清美協no.64)
- 9/ 1 県水彩画協会第17回展於県民会館(-5)。
(静岡9/1, 3, 4)
- 9/ 1 高柳千賀子クロッキー展於新静岡センター(-10)。
(静岡8/25, 9/1, 7, 8, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版8/25,
毎日中部版9/1, 中日静岡版9/1)
- 9/ 1 明治百年記念郷土資料展於県民会館(-5)。
(静岡9/2)
- 9/ 望月康男個展於静岡扇子屋(-10)。(毎日中部版9/6,
静岡9/7, 8, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版9/8)
- 9/ 4 小栗正個展於東京文藝春秋画廊(-10)。
- 9/ 6 池田正司「院展の画家(由比の今昔: 25, 26)」
(静岡9/6, 7)
- 9/ 7 河本晴雲・松山祐利・岸本謙仁作陶三人展於静岡産業会館(-10)。(静岡9/8)
- 9/11 グループ「幻触」による()展於東京ギャラリー新宿
(-30)。(静岡8/28, 10/19)
- 9/ 杉山栄次郎・海野光弘二人展於静岡扇子屋(-20)。
(静岡9/14, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版9/15, 読売静岡
B版9/15, 毎日中部版9/19)
- 9/12 県肖像画展於浜松松菱(-17)。(静岡9/8)
- 9/14 高橋晴風日本画展於浜松児童会館(-17)。
(毎日西部版9/13, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版9/15, 中
日遠州版9/15, 静岡9/15)
- 9/15 県下の名刀展・能面装束古鏡展於佐野美術館
(-12/10)。(三島民報9/10, 20, 三島ニュース9/17,
10/22, 29, 11/19)
- 9/21 平井俊男スケッチ展於清水戸田書店(-30)
(朝日静岡版6/16, 駿豆, 静岡, 遠州版9/22, 毎日中
部版9/21, 静岡9/22, 29)
- 9/ 鷲坂博規・鷲坂せつ子展於静岡扇子屋(-)。
(静岡9/25)
- 9/22 第31回新制作展於東京都美術館(-10/10)。
秋野不矩《苦力》掛井五郎《アプカリプス》
- 9/22 第29回一水会展於東京都美術館(-10/10)。
新入選者(毎日東部版9/20, 読売静岡B版9/20, 朝
日駿豆, 静岡, 遠州版9/21)
- 9/22 第13回一陽会展於東京都美術館(-10/10)。
新入選、入賞者。(静岡9/18, 21, 22, 毎日中部版
9/20, 21, 29, 読売静岡B版9/20, 10/3, 6, 朝日駿豆,
静岡, 遠州版9/22, 29)
- 9/23 《植松与三郎胸像》除幕式於原町中央公民館。
(沼津9/8)
- 9/26 ルノワール展於静岡松坂屋(-10/1)。
(静岡8/14, 9/22, 27, 29, 毎日東, 中, 西部版9/19, 20,
21, 23, 26, 27, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版9/26, 29)
- 9/26 武蔵野大学美術展於浜松松菱(-10/1)。
(静岡9/22, 29, 毎日西部版9/26)
- 9/27 常葉勇・田代盛武・久保田史朗三人展於静岡産業
会館(-29)。(静岡9/22, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版9/22,
毎日西部版9/26, 読売静岡B版9/27, 中日静岡版
9/27)
- 9/ 大塚亮治《太陽への賛美》島田市民会館に寄贈。
(静岡9/23)
- 10/ 1 第2回現代日本彫刻展於宇部市野外彫刻美術館
(-11/5)。掛井五郎《時満てるマリヤ》宮脇愛子
《Light in Brass Reeds 302-1》
- 10/ 1 サロン・ド21世紀協会展於静岡産業会館(-5)。(静
岡9/29, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版9/29, 清美協no.64)
- 10/ 1 伊藤勉個展於新静岡センター(-10)。(静岡9/29,
10/5, 6, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版9/29, 10/6, 毎日中
部版10/1)
- 10/ 平井俊男欧州スケッチ展於静岡扇子屋(-10)。
(読売静岡B版10/3, 静岡10/5, 6)
- 10/ 2 沢村美佐子個展於東京資生堂ギャラリー(-7)。
(みづゑno.755)
- 10/ 2 杉山邦彦個展於静岡吉見書店(-8)。
(静岡9/29, 10/2, 6, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版9/29, 読
売静岡B版10/1, 毎日中部版10/4, 読売静岡B版

- 10/6, 清美協 no.64)
- 10/ 3 新槐樹社静岡県支部第9回展於県民会館(-7)。
(静岡9/29, 10/6, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版9/29, 毎日
中部版10/3, 中日静岡版10/3, 読売静岡B版10/3)
- 10/ 3 東野芳明講演会於清水市中央公民館。
(清美協no.64)
- 10/ 5 江崎金彦カラー写真展於静岡松坂屋(-10)。
(静岡9/29, 10/4, 6)
- 10/ 7 川口潔渡米記念絵画展於沼津市公会堂(-9)。
(沼津朝日10/7, 黎明10/7)
- 10/ 9 鈴木三朝秀作回顧展浜松遠鉄名店ビル(-22)。
(静岡10/13, 20)
- 10/10 市野三接展於浜松松菱(-15)。(静岡10/6, 13, 朝日
駿豆, 静岡, 遠州版10/13, 浜松民報10/17)
- 10/ 小林義司個展於静岡扇子屋(-20)。(静岡10/16)
- 10/ 鈴木新一個展於清水戸田書店(-21)。
(読売静岡B版10/10, 17, 静岡10/20)
- 10/12 第21回二紀展於東京都美術館(-30)。佐野繁次郎
《青いオヘソ》《街の人》(美術年鑑S.43)
- 10/12 第35回独立展於東京都美術館(-30)。山道栄助
《作品A》《作品B》沢村美佐子《行進》《楽譜》
- 10/13 江上明「北川民次」(中日10/13)
- 10/ 東韻光《早暁》鈴木竹柏《夕焼け》磐田市長室に飾
られる。(毎日西部版10/17)
- 10/16 和田三造遺作版画展於東京千代田画廊(-28)。
(浜松民報10/16)
- 10/17 清川泰次帰国記念個展於東京銀座松坂屋(-22)。
『絵と心』刊行。(浜松民報10/6, 静岡10/19)
- 10/19 飯田昭二「現代美術の追及」(静岡10/19)
- 10/19 吉野不二太郎展於静岡谷島屋書店(-25)。
(毎日中部版10/20, 読売静岡B版10/21)
- 10/21 巻本辰夫個展於静岡扇子屋(-31)。(毎日中部版
10/20, 中日静岡版10/21, 読売静岡B版10/24, 静岡
10/26, 27, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版10/27)
- 10/21 ビュフェ闘牛士石版画連作展於新静岡センター
(-31)。(静岡10/20, 27, 毎日中部版10/21, 読売静岡
B版10/31)
- 10/22 重岡建治《久保田豊胸像》除幕於伊豆長岡。
(三島民報10/20, 25*)
- 10/24 写実派協会展於静岡吉見書店(-29)。(毎日中部
版10/22, 読売静岡B版10/25, 静岡10/27, 朝日駿
豆, 静岡, 遠州版10/27)
- 10/24 七彩会第10回展於浜松松菱(-29)。
(浜松民報10/2, 3, 27, 静岡10/20, 27)
- 10/27 澤田政廣展於東京松屋(-11/1)。
- 10/28 美術文化県支部展於浜松商工会館(-11/1)。
(浜松民報10/27, 31, 中日遠州版10/28, 毎日西部版
10/29, 31)
- 10/30 六灯会第11回展於浜松松菱(-11/3)。
(浜松民報11/1)
- 11/ 1 丹下健三《静岡新聞東京支局》完成, 修祓式。
(静岡S41. /28, S42.7/26, 29, 31, 8/13, 17, 23, 27,
9/12, 19, 26, 10/3, 10, 29, 11/1)
- 11/ 1 第10回日展於東京都美術館(-12/6)。
中村岳陵《那智神滝》野島青茲《長鼓》浅井行雄
《裸婦立像》澤田政廣《蝶と遊ぶ》重岡建治《Lの
ポーズ》杉本宗一《老婦》館野親光《あした》堤達男
《渚》和田金剛《太陽神の華》(美術年鑑S.43, 静岡
9/11, 毎日東, 中, 西部版10/31*, 読売静岡B版10/31,
朝日駿豆, 静岡, 遠州版11/3)
- 新入選者。(毎日西部版10/27, 朝日駿豆, 静岡, 遠州
版10/28)
- 11/ 1 小笠原直陶展於新静岡センター(-5)。
(静岡10/27)
- 11/ 1 杉山照治・杉山瑛子二人展於静岡扇子屋(-10)。
(毎日中部版11/1, 静岡11/2, 朝日駿豆, 静岡, 遠州
版11/3, 読売静岡B版11/8)
- 11/ 3 明治の石版画展於浜松城郷土博物館(-12)。
(浜松民報10/18, 毎日西部版10/27)
- 11/ 6 土方定一「地方美術館を考ふる」(静岡11/6)
- 11/ 落合英男個展於静岡吉見書店(-15)。
(毎日中部版11/10)
- 11/ 7 第6回国際形象展於東京三越(-19)。北川民次
《りんごの園》《陶工の家族》山下充《サンマルコ》
《コルシカ》
- 11/ 7 東郷青児水彩画展於新静岡センター(-16)。(朝日
駿豆, 静岡, 遠州版11/3, 中日静岡版11/7, 読売静岡
B版11/9, 静岡11/10)
- 11/10 志田喜代江「竹久夢二の作品収集」
(静岡11/10)
- 11/11 増田大罌・鈴木篤・吉野不二太郎・久保田光亭・杉
山青樹路五人展於静岡扇子屋(-19)。(毎日中部版

- 11/10,朝日駿豆,静岡,遠州版11/10,読売静岡B版
11/12,14,静岡11/13)
- 11/ 熱海市役所に昭和2年御用邸より払下の西洋絵
画。(静岡11/15)
- 11/14 鈴木三朝展於浜松松菱(-19)。
(毎日西部版11/11,静岡11/14)
- 11/15 関谷充彫刻展於静岡安心堂(-19),於静岡ニュー
八州(23-25)。(静岡11/16,24)
- 11/15 県芸術祭美術展第7回展於県民会館(-19)。
審査員:山口源、土方定一、村井辰夫、仁戸田秀
吉、駒井哲郎、桑原翠邦、野島青茲、辻光典。(静岡
6/12,7/22,11/8,10,15,20,毎日東,中,西部版7/22,
10/15,伊豆毎日8/11,朝日駿豆,静岡,遠州版9/1,
11/17,24,読売静岡B版11/15,中日遠州版11/21)
- 11/17 島戸繁個展於新静岡センター(-23)。
(静岡11/10,17,20)
- 11/17 第22回行動展浜松於浜松市民会館(-23)。(毎日
西部版11/1,19,朝日駿豆,静岡,遠州版11/18,静岡
11/20)
- 11/18 青木洋子個展於沼津画廊(-25)。(沼津毎日11/17,
静岡11/17,朝日駿豆,静岡,遠州版11/24)
- 11/18 横沢治夫遺作展於清水伏見文具店(-24)。
(清美協no.66)
- 11/ 大木克哉写真展於静岡扇子屋(-30)。
(静岡11/23,24,読売静岡B版11/25)
- 11/ 望月光一造形展於静岡谷島屋書店(-30)。
(静岡11/24)
- 11/ 山本吉雄展於下田静岡銀行下田支店(-30)。
(毎日東部版11/29)
- 11/27 上田臥牛展於大阪日動画廊(-12/2)。
- 11/29 三沢佐助洋画展於静岡産業会館(-12/1)。(静岡
11/24,毎日中部版11/28,中日静岡版11/29,読売静
岡B版11/29,30)
- 11/29 川端政雄ヨーロッパスケッチ展於静岡小谷画荘
(-12/4)。(読売静岡B版11/29,中日静岡版11/29,
静岡12/1,4,朝日駿豆,静岡,遠州版12/1)
- 12/ 見城春男小品展於静岡扇子屋(-10)。(毎日中部版
12/3,静岡12/4,8,読売静岡B版12/5,朝日駿豆,静
岡,遠州版12/8)
- 12/ 伊藤康近彫刻展於静岡谷島屋書店(-7)。
(静岡12/4)
- 12/ 宮脇愛子《光のパイプシリーズA》,第5回グッゲンハ
イム国際彫刻展買上賞受賞。(朝日12/6)
- 12/ 4 曾宮一念新作油絵展於東京兜屋画廊(-13)。
(朝日12/6)
- 12/ 5 宇野富美代個展於下田静岡銀行下田支店(-9)。
(静岡12/5,8,朝日駿豆,静岡,遠州版12/8)
- 12/ 8 寺平誠介個展於静岡谷島屋書店(-14)。(中日静岡
版12/8,朝日駿豆,静岡,遠州版12/8,静岡12/11,読
売静岡B版12/14)
- 12/ 9 澤田政廣《佐野隆一胸像》於佐野美術館。(毎日東
部版12/6,三島ニュース12/10*,三島民報12/15*)
- 12/10 シンポジウム「芸術運動はどうあるべきか」於長岡現
代美術館。司会:石子順造。
- 12/11 50A.F.展於東京ギャラリー新宿(-20)。
鈴木慶則出品。
- 12/11 不思議の国のアート展於東京画廊(-26)。
鈴木慶則、飯田昭二出品。
- 12/11 虹人会展於新静岡センター(-17)。(静岡12/8,15,
中日静岡版12/10,読売静岡B版12/16)
- 12/12 鈴木正個展於県民会館(-15)。(静岡12/8,14,読売
静岡B版12/13)
- 12/15 「西伊豆町の鳩巢会」(静岡12/15)
- 12/15 堤達男、中川雄太郎、県文化奨励賞受賞。
(静岡12/16,毎日東,中,西部版12/16,朝日駿豆,静
岡,遠州版12/16,読売静岡B版12/16)
- 12/ 中島清個展於静岡安心堂(-24)。(静岡12/22)
- 12/ 福沢一郎スケッチ展於浜松ナカムラ画廊(-25)。
(朝日駿豆,静岡,遠州版12/22,毎日西部版12/22)
- 12/18 小川龍彦「わが青春」(静岡12/18)
- 12/21 斎藤晃個展於清水伏見文具店(-27)。
(清美協no.67)
- 12/24 澤田政廣《勝又春一胸像》除幕式於御殿場市役
所前。(静岡12/25,毎日東,中部版12/25)
- 12/ 村田収・樽松貞雄・齊藤磐三人展於静岡扇子屋
(-31)。(毎日中部版12/22,静岡12/25,朝日駿豆,静
岡,遠州版12/22)
- 1968 昭和43年**
- 1/ 1 山口源《はつ日》(沼津朝日1/1)
- 1/ 1 野島青茲《大内山新春》(静岡1/1)
- 1/ 2 新春展於静岡扇子屋(-31)。

- (静岡S42.12/31, S43.1/8)
- 1/2 広重東海道五十三次版画展於新静岡センター(-10)。(静岡S42.12/31, S43.1/5, 毎日中, 西部版1/9)
- 1/ 寺島紫明美人画展於静岡安心堂(-7), 沼津富士急(-21)。(読売静岡B版1/6, 静岡1/19, 沼津朝日1/19, 黎明1/19)
- 1/ 杉山良雄秋葉街道スケッチ展於県民会館(-7)。(静岡1/5)
- 1/ 静光会墨絵展於静岡産業会館(-7)。(静岡1/5, 読売静岡B版1/6)
- 1/7 三和柏史展於清水戸田書店(-8)。(静岡S42.12/31, S43.1/5)
- 1/ 野中春士・野中弘士・野中国昭展於浜松松菱(-15)。(毎日西部版1/12)
- 1/11 「和田金剛 木曜インタビュー」(沼津朝日1/11)
- 1/11 浜松美術連盟展第2回展於浜松市民会館(-18)。(毎日西部版S42.11/29, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版S42.12/29, S43.1/19, 静岡1/5, 中日遠州版1/11)
- 1/12 寺平誠介「東南アの旅」(静岡1/9, 11, 12, 19)
- 1/13 錦絵に見る明治100年展於県民会館(-2/4)。(静岡1/12, 15, 19, 26, 2/1, 毎日中部版1/19, 西部版1/20, 中日遠州版1/23, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版1/26)
- 1/15 藤枝市美術協会第1回展於藤枝井出芳志宅(-16)。(静岡S42.12/28, S43.1/16, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版S42.12/29)
- 1/ 小山勇油絵小品展於浜松商工会館(-21)。(静岡1/19, 毎日西部版1/19)
- 1/16 志村立美個展於東京カドー画廊(-31)。(静岡1/22)
- 1/17 県西部美術展第1回展於浜松遠鉄名店ビル(-22)。(静岡1/12, 19, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版1/12, 中日遠州版1/17)
- 1/ 森田東光《日蓮上人一代記》於伊東仏現寺。(毎日東, 中部版1/18)
- 1/20 北野熊雄回顧展於浜松松菱(-21)。(毎日西部版1/17)
- 1/21 津田安太郎展於新静岡センター(-31)。(静岡1/19, 26, 読売静岡B版1/21, 24)
- 1/ 伊藤継郎個展於新静岡センター(-31)。(読売静岡B版1/24, 30, 静岡1/26, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版1/26)
- 1/ 新春同人展於静岡扇子屋(-2/10)。(朝日駿豆, 静岡, 遠州版1/26, 静岡1/29)
- 1/ 山口源展於東京養清堂(-2/3) (朝日1/31)
- 1/ 石田丑男《なかよしの像》下田双葉幼稚園。(静岡1/31)
- 1/ 伊藤・山田二人展於清水戸田書店(-2/5)。(読売静岡B版1/30)
- 2/ 岡崎平一個展於静岡谷島屋書店(-7)。(朝日駿豆, 静岡, 遠州版2/2, 静岡2/5)
- 2/2 「井出孝 私のコレクション」(静岡2/2)
- 2/5 おぎくぼ画廊賞第8回選抜展於おぎくぼ画廊(-18)。
飯田昭二《Sugar Town》第8回おぎくぼ画廊賞受賞。(静岡2/8, 22, 3/11)
- 2/6 サロン・ド21世紀協会小品展於清水戸田書店(-11)。(朝日駿豆, 静岡, 遠州版2/2, 読売静岡B版2/6, 静岡2/9,)
- 2/7 八木利一近況。(静岡2/7)
- 2/7 デビット・ビタレリー来県、森町で陶芸を学ぶ。(毎日西部版3/6)
- 2/7 太田イツ子・鈴木和子二人展於静岡小谷画荘(-12)。(朝日駿豆, 静岡, 遠州版2/2, 読売静岡B版2/8, 静岡2/9)
- 2/8 野中鳴雪遺作展於県民会館(-10)。(朝日駿豆, 静岡, 遠州版2/2, 16, 読売静岡B版2/5)
- 2/11 高柳千賀子モードデッサン展於新静岡センター(-18)。(静岡2/9, 15, 16, 読売静岡B版2/14, 15)
- 2/12 杉山良雄「桜が池参道の今昔」(静岡2/12)
- 2/ 八木利春展於清水戸田書店(-18)。(朝日駿豆, 静岡, 遠州版2/16)
- 2/15 吉野不二太郎油絵展於静岡谷島屋書店(-21)。(毎日中部版2/15, 静岡2/16, 19, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版2/16, 読売静岡B版2/17)
- 2/20 小磯良平版画展於浜松ナカムラ画廊(-28)。(静岡2/16, 23, 毎日西部版2/20)
- 3/1 杉山青樹路個展於新静岡センター(-10)。(静岡2/23, 3/4, 8, 読売静岡B版, 2/29, 3/1, 2, 9)
- 3/9 「沖六鵬 わが青春」(静岡3/9)
- 3/9 浅井行雄《西郷山岡会見記念碑》除幕式。(朝日静岡版S42.11/13, S42.6/6, S43.3/1, 静岡3/10, 毎日東, 中部版3/10*)

- 3/11 飯田昭二「私の現代美術論」(静岡3/11)
- 3/ 小林洋子個展於静岡扇子屋(-20)。
(静岡3/14,15,朝日駿豆,静岡,遠州版3/15,読売静岡B版3/16,17)
- 3/15 「中川雄太郎 我が青春」(静岡3/15,16)
- 3/16 鈴木福富,近況。(静岡3/16)
- 3/18 第20回三軌会展於東京都美術館(-31)。
入選者。(静岡3/23)
市川正三,三軌会賞受賞。委員となる。
- 3/19 井上速男個展於静岡産業会館(-20)。(毎日中部版3/10,静岡3/11,15,朝日駿豆,静岡,遠州版3/15)
- 3/19 ぐるっぺ作品展於浜松松菱(-24)。(静岡3/15)
- 3/19 明治・大正画家洋画展於浜松市民会館(-24)。
(静岡3/15,朝日駿豆,静岡,遠州版3/22)
- 3/20 江川坦庵遺墨展於佐野美術館(-5/19)。(三島民報1/20,3/15,25,中日遠州版3/15,三島ニュース3/17)
- 3/ 河野修治油絵小品展於静岡扇子屋(-31)。
(静岡3/25,読売静岡B版3/27,28,29)
- 3/ 加賀孝一郎個展於静岡小谷画荘(-31)。
(静岡3/28,朝日駿豆,静岡,遠州版3/29,毎日中部版3/30)
- 3/25 太田京子近作書展於東京中央公論画廊(-30)。
(静岡3/11)
- 3/26 明治百年回顧版画展於浜松松菱(-31)。
(静岡3/22)
- 3/ バージニア・カーライト来浜。
(毎日西部版4/28)
- 3/30 高塚竹堂[錠二]逝去。78歳。(読売3/31)
- 4/ 1 大石麗峰肖像画展於県民会館(-10)。
(静岡3/29,4/3,朝日駿豆,静岡,遠州版4/2)
- 4/ 1 青木ヨシノブ個展於静岡扇子屋(-10)。(朝日駿豆,静岡,遠州版3/29,読売静岡B版4/2,静岡4/6,8)
- 4/ 2 第23回春季院展展於東京三越(-7)。
入選者。(静岡4/1)
- 4/ 4 石子順造「劇画ブームとその背景」(静岡4/4)
- 4/11 久保田光亭・鈴木篤・安田英山三人展於新静岡センター(-20)。(静岡4/5,11,15,読売静岡B版4/10,12)
- 4/12 渡辺墨仙書展於清水花菱(-17)。
(朝日駿豆,静岡,遠州版4/12)
- 4/13 第16回日彫展於東京都美術館(-5/3)。
- 澤田政廣《淵に立つ稲田姫》重岡建治《浜》下山昇《早春》杉本宗一《僧》平馬学《蜻蛉》堤達男《ベトナムの女》飛岡文一《独立運動の人》平野敬吉《雫》和田金剛《水鳥》山本利治《南風》長澤幸夫《雲照和上像》(遺作)。(出品目録)
- 4/15 針生一郎「フロンティアとしての地方」
(静岡4/15)
- 4/16 吉崎吉一・佐藤徹二人展於浜松松菱(-21)。
(毎日西部版4/14)
- 4/ 堤達男《龍瑞嘉藏胸像》下田温泉本社前に移転。
(静岡伊豆,東部版4/17)
- 4/17 静岡市美術協会アートフェスティバル於県民会館(-21)。(静岡4/18,朝日駿豆,静岡,遠州版4/19)
- 4/22 第42回国画会展於東京都美術館(-5/8)。
青木達弥《花束》渋川栄志《猫達》栗山茂《生物詩'68-no.3》《生物詩'68-no.4》中川雄太郎《慈愛》山口源《海の沈黙》芹沢銈介《型染着物》山口源《海の沈黙》
白沢良《白と黒の変奏》国画賞受賞。(朝日駿豆,静岡,遠州版4/26)
入選者。(中日遠州版4/21)
- 4/22 第45回春陽会展於東京都美術館(-5/8)。
小栗哲郎《遠州日坂》
入選者。(中日遠州版4/21)
- 4/24 小木麦展於浜松児童会館(-28)。(毎日西部版4/23,25,朝日駿豆,静岡,遠州版4/26)
- 4/ 県善三郎・野中弘土展於浜松松菱(-28)。
(朝日駿豆,静岡,遠州版4/27)
- 4/ 《豊田佐吉胸像》(戦前作)再設置於湖西。
(中日遠州版4/26)
- 4/27 《白鳥吾市胸像》除幕式於静岡農業高校。
(静岡4/26)
- 4/29 山下充滞欧作品展於東京日動画廊(-5/8)。
- 4/30 トリックス・アンド・ヴィジョン展於東京村松画廊(-5/11)・東京画廊(-5/18)。(同展リーフレット,静岡5/9)
- 4/ 静岡県文化振興協議会を静岡県文化振興協会と改称。
- 5/ 秋山浩薫染色展於静岡扇子屋(-10)。
(静岡5/2,朝日駿豆,静岡,遠州版5/3)
- 5/ 1 岡崎平一個展於新静岡センター(-10)。(静岡5/1,

- 2, 5, 6, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版5/3, 毎日中部版5/5, 読売静岡B版, 5/7, 8)
- 5/ 2 「丹沢紅嶺 木曜インタビュー」(沼津朝日5/2)
- 5/ 3 石黒敬七コレクション展於沼津西武(-5)。(沼津5/4, 静岡5/5)
- 5/ 3 「井出芳志 ひとこと」(静岡5/3)
- 5/ 3 池田正司、県文化奨励賞受賞。(静岡5/2, 4, 毎日東, 中, 西部版5/2, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版5/2)
- 5/ 7 緑青会日本画第4回展於浜松松菱(-12)。(毎日西部版5/5, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版5/10)
- 5/10 第8回現代日本美術展於東京都美術館(-30)。
北川民次《アトリエの母子[アトリエの中の母子]》佐野繁次郎《限界》野田好子《月・花・雲》上田臥牛《浄裸々》中島多茂都《壁巖浄土》宮脇愛子《光のバイブ Seession No.3A》《同No.3B》
コンクール部門: 前田守一《あらっ》鈴木慶則《表面幻想による非在のオブジェ》丹羽勝次《箱B》斎藤司朗《距離測定のための肖像=キング牧師》飯田昭二《無題》仲山進作《KUBO C-4-2》(静岡5/20)
- 5/10 集古十種展於県民会館(-25, 6/-16)。(静岡5/13, 6/6, 7, 読売静岡B版6/4, 5, 朝日静岡版6/7)
- 5/11 北斎広重版画展於沼津富士急(-16)。(黎明5/10, 静岡5/11, 13)
- 5/ 長谷川栄一個展於静岡扇子屋(-20)。(読売静岡B版5/15, 16, 静岡5/16, 毎日中部版5/16, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版5/17)
- 5/14 人間国宝新作展於静岡松坂屋(-19)。(毎日東, 西部版5/14, 18, 読売静岡B版5/14, 15, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版5/17)
- 5/15 県美術家連盟第5回展於県民会館(-19)。(朝日駿豆, 静岡, 遠州版5/10, 15, 静岡5/15, 16, 17, 毎日静岡中部版5/16)
- 5/18 井上ひとし写真展於清水戸田書店(-25)。(朝日駿豆, 静岡, 遠州版5/17, 静岡5/18, 読売静岡B版5/19)
- 5/21 井上速男展於沼津富士急(-23)。(毎日東部版5/23)
- 5/21 壮炎会第23回展於浜松市民会館(-26)。(静岡西部版5/20, 22, 毎日西部版5/21, 静岡5/22, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版5/24)
- 5/25 画家としての白隠展於神奈川県立近代美術館(-6/30)
- 5/25 青木達弥「わが青春」(静岡5/25, 27)
- 5/26 前田守一版画展於清水戸田書店(-6/1)。(清美協no.70)
- 5/ 端山経作個展於松崎町だんざか(-6/30)。(静岡5/27)
- 5/28 県版画協会第33回展於県民会館(-6/2)。(静岡5/27, 30, 読売静岡B版5/29, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版5/31)
- 5/29 江崎武雄展於静岡田中屋(-31)。(静岡5/27, 29, 30)
- 5/30 「佐野丹丘 木曜インタビュー」(沼津朝日5/30, 黎明5/30)
- 5/30 堤達男《船山啓次郎像》(沼津S41.2/24, 静岡S42.7/13, S43.5/29, 31, 朝日駿豆, 静岡版5/31)
- 5/31 藤枝市美術家協会五十景展於藤枝市青島公会堂(-6/2)。(静岡5/14, 朝日駿豆, 静岡版5/31)
- 5/31 山田治個展於浜松松菱(-6/6)。(毎日西部版5/24, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版5/31, 静岡6/3)
- 6/ 1 上田桑鳩書作展於沼津富士急(-6)。(沼津朝日5/31, 6/4, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版5/31, 静岡6/1, 毎日東部版6/2)
- 6/ 原田政太郎個展於静岡扇子屋(-10)。(読売静岡B版6/5, 6, 静岡6/6, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版6/7)
- 6/ 島津士哲個展於新静岡センター(-10)。(読売静岡B版6/2, 5, 6, 静岡6/3, 毎日中部版6/7, 朝日静岡版6/7)
- 6/ 3 北川民次思い出のメキシコ展於東京飯田画廊(-15)。
北川民次『思い出のメキシコ』刊行。(朝日6/1, 東京6/11, 読売6/11)
- 6/ 4 山下充滞欧作個展於県民会館(-12)。(朝日駿豆, 静岡, 遠州版5/31, 読売静岡B版6/5, 静岡6/6, 7)
- 6/ 伊東市内在住作家作品展於伊東和田湯会館(-9)。(朝日駿豆, 静岡, 遠州版6/7)
- 6/11 藤野嘉市油絵個展於静岡扇子屋(-20)。(読売静岡B版6/11, 12, 13, 19, 静岡6/13, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版6/14)
- 6/12 創元会浜松展於浜松市民会館(-17)。(朝日駿豆, 静岡, 遠州版6/7, 毎日西部版6/9, 静岡6/12, 中日遠州版6/14)
- 6/13 北川恵子展於静岡谷島屋書店(-19)。

- (朝日駿豆, 静岡, 遠州版6/7)
- 6/ 松林トミ夫・しだかずよし展於静岡谷島屋書店(-26)。
(朝日駿豆, 静岡, 遠州版6/21, 静岡6/24)
- 6/ 鈴木貞夫展於浜松商工会館(-20)。
(朝日駿豆, 静岡, 遠州版5/17)
- 6/21 青島秋果陶彫展於静岡扇子屋(-30)。
(静岡6/24, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版6/28)
- 6/23 平井俊男個展於清水戸田書店(-7/10)。
(静岡6/21, 28, 7/5, 読売静岡B版6/25, 7/5, 清美協no.71)
- 7/ 1 蛍光菊展の国内展示於東京画廊・南画廊(-13)
飯田昭二、鈴木慶則出品。
- 7/ 1 新象作家協会巡回展於浜松市民会館(-7)。
(静岡6/28, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版7/5)
- 7/ 栗山茂ハルビン北京風物展於静岡扇子屋(-10)。
(毎日中部版7/3, 静岡7/4, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版7/5, 読売静岡B版7/5, 6)
- 7/ 井上恒也日本画展於東京三越(-7)。(朝日7/3)
- 7/11 高柳千賀子モードデッサンクローキー展於静岡扇子屋(-20)。(静岡7/11, 12, 15, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版7/12)
- 7/11 矢沢五雄個展於静岡谷島屋書店(-17)。
(静岡7/11, 12, 15)
- 7/18 山根七郎治、逝去。(静岡7/18, 20, 23, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版7/19, 読売静岡版7/19, 中日遠州版7/19, 毎日東, 中, 西部版7/20)
- 7/19 《松永栄重胸像》静岡ろう学校。(静岡7/20)
- 7/21 鈴木篤・杉山青樹路二人展於静岡扇子屋(-31)。
(読売静岡B版7/21, 24, 静岡7/22, 毎日東, 中, 西部版7/26, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版7/26)
- 7/ 秋山浩薫染色展於新静岡センター(-29)。
(静岡7/25, 26, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版7/26)
- 7/26 二紀浜松支部第2回展於浜松市民会館(-30)。(毎日西部版7/26, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版7/26)
- 7/ 《うなぎ観音像》移転於浜松弁天島。(中日遠州版1/13*, 静岡7/25, 8/25, 毎日西部版8/25)
- 7/ 静岡中央美術研究所設立。
- 7/ 猿黙庵子《想古の曲》(沼津朝日7/28)
- 8/ 岡崎平一水彩展於静岡扇子屋(-10)。(静岡8/2, 5, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版8/2, 読売静岡B版8/8)
- 8/ 2 「新井旅館 天平風呂 宿帳」(静岡8/2)
- 8/ 3 日展静岡展於県民会館・産業会館(-26)。
中村岳陵《那智神滝》*1 澤田政廣《蝶と遊ぶ》*2
野島青茲《長鼓》*3 和田金剛《太陽神の華》*5 川村驥山《和》*4 (静岡1/1, 6/1, 12, 19, 27, 7/1, 3, 4, 11, 15, 17, 18, 20, 22, 25, 26*3, 27, 29, 30, 31, 8/1, 2, 3, 4, 5, 6*1, 2, 7, 8*4, 9*5, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 20, 21, 23, 27, 28, 12/24, 三島ニュース6/27, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版8/2, 読売静岡版8/3, 静岡B版8/3, 4, 5)
- 8/ 日下泰輔展於伊東朝日ビル(-18)。
(朝日駿豆, 静岡, 遠州版8/16)
- 8/11 平井俊男展於清水戸田書店(-20)。
(朝日駿豆, 静岡, 遠州版8/9)
- 8/11 田島朋美展於清水戸田書店(-20)。(朝日駿豆, 静岡, 遠州版8/9, 17, 読売静岡B版8/14)
- 8/ 山本昌司水彩小品展於静岡扇子屋(-20)。
(読売静岡B版8/14, 静岡8/15, 16)
- 8/12 市川正三個展於東京ときわ画廊(-17)。
- 8/12 野島青茲「わが青春」(静岡8/12, 16)
- 8/16 竹山元造イラスト展於沼津富士急(-22)。(静岡8/9, 16, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版8/16)
- 8/ 松山伊矩個展於静岡扇子屋(-31)。北海道へ転居。(読売静岡B版8/25, 静岡8/26, 30, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版8/30)
- 8/ 中川雄太郎カッパ展於清水戸田書店(-31)。(読売静岡B版8/27, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版8/30, 静岡8/30)
- 8/ 福田敏子・河原崎律水彩画展於静岡小谷画荘(-9/1)。(静岡8/30, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版8/30)
- 8/ 立体作品展於清水中央公民館(-9/8)。
(静岡8/30, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版8/30)
- 8/ 柏木俊一近作小品展於沼津東電サービスセンター(-9/2)。(毎日東部版8/29)
- 8/ 芥川永《聖観世音菩薩像》於清水町法泉寺。
(静岡8/27)
- 8/30 「沖六鵬 しずおか時の人」
(毎日東, 中, 西部版8/30)
- 8/31 鈴木重光油彩小品展於沼津富士急(-9/5)。
(静岡8/30)
- 9/ 1 第53回二科展於東京都美術館(-20)。北川民次《陶房の人々》(美術年鑑S.44, 静岡9/9*, 中日10/2)

- 新入選者発表。(静岡8/29, 毎日東, 中部版8/29, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版8/29, 9/1, 読売静岡B版8/29, 9/1)
- 9/ 1 第53回院展於東京都美術館(-20)。
中島多茂都《雨後》(美術年鑑S.44)
土橋妙子、院友となる。(静岡9/2)
入選者発表。(毎日東, 中, 西部版8/27, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版8/27)
- 9/ 1 平井俊男油絵小品展於新静岡センター・静岡扇子屋(-10)。(読売静岡B版9/5, 静岡9/6, 7)
- 9/ 鳩巢会近況。(静岡9/3)
- 9/10 日本古代の装身具展於佐野美術館(-10/10)。(三島民報5/15)
- 9/10 白隠展於県民会館(-15)。(静岡9/9, 10, 毎日中部版9/11)
- 9/ 海野光弘・杉山栄次郎展於静岡扇子屋(-20)。(静岡9/16, 毎日中部版9/19)
- 9/12 和田金剛《羽ばたきの像》除幕於沼津第一小学校。(静岡8/16, 毎日東部版8/17*, 読売静岡B版8/17*, 沼津朝日8/18*, 黎明8/18*)
- 9/12 自由グループ第6回展於浜松市民会館(-18)。(毎日西部版9/11, 静岡9/13)
- 9/13 「板谷房 わが青春」(静岡9/13, 14)
- 9/14 静流会第22回展於沼津富士急(-17)。(沼津朝日9/12, 17, 黎明9/12, 静岡9/13, 14, 読売静岡B版9/15, 毎日東部版9/15)
- 9/16 「美術館に思う」(毎日東, 中, 西部版9/16)
- 9/18 小堀威稜雄・成瀬憲・志賀旦山三人展於沼津富士急(-19)。(静岡9/13)
- 9/18 平尾花笠展於県民会館(-)。(朝日駿豆, 静岡, 遠州版9/18)
- 9/19 長岡宏個展於静岡小谷画荘(-22)。(静岡9/19, 20)。
- 9/22 第32回新制作展於東京都美術館(-10/10)。
秋野不矩《野娘》出品。
- 9/22 第14回一陽会於東京都美術館(-10/10)。
入選者発表。(静岡9/20)
- 9/ 望月康男水彩画展於静岡扇子屋(-30)。(毎日中部版9/27, 静岡9/30)
- 9/25 県水彩画協会第18回展於県民会館(-29)。(静岡9/20, 26, 27)
- 9/25 白隠遺墨展於浜松市民会館(-29)。(毎日西部版9/25, 静岡9/25)
- 9/26 「山口源 木曜インタビュー」(沼津朝日9/26, 黎明9/26)
- 9/ 画集「中村岳陵」刊行。
- 9/30 長岡宏、滞欧(-S44.)。(静岡9/19, 20, S44.11/24)
/ 三島新十景決定。(三島民報7/30, 9/5, 10/15, 三島ニュース9/8)
- 10/ 1 市川正三油絵小品展於新静岡センター(-10)。(静岡9/27, 10/7, 読売静岡B版10/2)
- 10/ 1 県写真サロン第13回展於県民会館(-10)。(朝日駿豆, 静岡, 遠州版6/1, 8/11, 9/17, 25, 26, 27, 28, 29, 読売静岡B版10/2)
- 10/ 遠山かつこ・近藤至弘詩画展於静岡扇子屋(-10)。(静岡10/3, 読売静岡B版10/3)
- 10/ 遠州美術第12回展於浜松市民会館(-9)。(静岡10/7)
- 10/ 4 服部一秀展於熱海文化会館(-6)。(静岡9/27, 静岡東部版10/7)
- 10/ 北川民次新作展於東京大丸(-10)。(朝日10/5)
- 10/ 長谷川政幸デザイン展於清水伏見文具店(-12)。(静岡10/6, 11)
- 10/ 7 「風土 グループ登場」(静岡10/7)
- 10/ 7 小池一誠「球の表層」展於東京おぎほ画廊(-13)。
- 10/ 7 久能山東照宮修復完工。(静岡S37.12/20, 毎日東, 中, 西部版8/17, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版10/17)
- 10/ 日加親善美術展於県民会館(-13)。(静岡10/11)
- 10/ 9 第7回国際形象展於東京三越(-20)。
北川民次《少女と昆虫》《瀬戸風景》
- 10/10 板谷房個展於静岡松坂屋(-15), 東京銀座松坂屋(22-27), 名古屋松坂屋(-11/3)。(読売静岡B版10/11, 15, 読売10/25, 静岡9/5, 10/3, 4, 7, 10, 11, 14, 23, 中日10/31)
- 10/10 大村政夫《鈴木金苗胸像》除幕式於島田球場。(朝日駿豆, 静岡, 遠州版1/25, 8/7, 10/11, 毎日東, 中, 西部版3/3, 10/8, 静岡10/10, 11, 読売静岡B版10/11)
- 10/11 鈴木重光詩と油絵小品展於新静岡センター(-20)。(静岡10/4, 11, 毎日中部版10/12)
- 10/ 内田公雄展於沼津つたや(-15)。(静岡10/11, 沼津朝日10/13, 黎明10/13)
- 10/ 島津士哲小品展於静岡扇子屋(-20)。

- (静岡10/17)
- 10/12 第22回二紀会展於東京都美術館他(-30)。
水野欣三郎《頭上の釣下げられた核の剣》
井出芳志《鈍》《脱遺》出品。《鈍》奨励賞受賞。
根来恒子,森年正,受賞。(静岡10/16,31,12/12)
新入選者。(毎日西部版10/9,朝日駿豆,静岡遠州
版10/9)
- 10/12 第36回独立展於東京都美術館(-30)。
山道栄助《砂漠の花A》《同B》沢村美佐子《エスカ
リエI》《同II》
- 10/12 第32回自由美術展於東京都美術館(-30)。
入選者。(朝日駿豆,静岡,遠州版10/10,毎日東,中
部,遠州版10/10)
- 10/15 東京国立博物館日本古美術展於佐野美術館
(-10/27)。(三島民報5/15,8/30,10/10,15,20,三島
ニュース8/25,10/13,静岡9/16,10/14,15,毎日東
部版10/15,16,28,朝日静岡版10/16,読売静岡B
版10/16)
- 10/15 明治百年石版画展於県民会館(-11/10)。(目録,静
岡10/11,21,毎日東,中,西部版10/27)
- 10/15 「幻触」展於静岡吉見書店(-20)。(毎日中部版
10/15,朝日駿豆,静岡,遠州版10/16,静岡10/17,
読売静岡B版10/17)
- 10/16 静岡県陶芸の伝統展於静岡田中屋(-21)。
(静岡10/15)
- 10/17 塚本タカヒコ・ヒガシクニヒロ・鈴木康次展於県民会
館(-21)。(静岡10/11,朝日駿豆,静岡,遠州版10/16)
- 10/19 中村岳陵展於横浜高島屋(-24)。
《緑影》(美術年鑑S.44)
- 10/21 漆畑弥一「浮世絵師清親(ふるさと百話)」
(静岡10/21,22,23,24)
- 10/ 狩野幹夫個展於静岡扇子屋(-31)。(毎日中部版
10/24,読売静岡B版10/25,静岡10/28)
- 10/23 磯村幸治郎「山口源氏の版画」(沼津朝日10/23)
- 10/24 杉本宗一写真展於静岡松坂屋(-26)。
(静岡10/24)
- 10/ 渡辺雷三郎版画展於沼津富士急(-31)。
(沼津朝日・黎明10/27)
- 10/26 建築作品写真展於静岡日生ビル(-27)。
(朝日静岡版10/23)
- 10/26 高崎晴風日本画展於浜松児童会館(-29)。
(毎日西部版10/22,26)
- 10/27 《清水次郎長像》《吉田松陰像》(静岡10/27)
- 10/ 大石麗峰《橘周太肖像》自衛隊34連隊に寄贈。
(静岡10/30)
- 10/31 「井出芳志 人物登場」(静岡10/31)
- 11/ 1 《旧見附学校》《神子元鳥灯台》特別史跡指定。
(静岡11/1,中日遠州版11/2)
- 11/ 1 第11回日展於東京都美術館(-12/6)。野島青茲
《武原はん像》藤本東一良《ミヤの海》大村政夫《若
い女》澤田政廣《白夢に襲はれた稲田姫》館野親
光《磯辺》堤達男《灯を》平野敬吉《おもかげ》和田
金剛《供宴》(美術年鑑S.44*)
館野親光,審査員。(毎日東部版6/16)
重岡建治《秋陽》入選。(静岡10/30,毎日東,中部版
10/30)
遠藤君雄《箱根の山と杉》入選。(沼津朝日・黎明
10/27,沼津毎日10/26)
新入選者。(静岡10/26,12/28,毎日東,中部版10/26,
西部版10/27,朝日駿豆,静岡,遠州版10/26,30)
- 11/ 1 白隠展於沼津市文化会館(-3)。(沼津朝日・黎明
10/29,31,毎日東部版10/31,静岡11/4)
- 11/ 岡崎平一作品展於新静岡センター(-10)。(静岡
11/1,7,朝日駿豆,静岡,遠州版11/6,読売静岡B版
11/6,8)
- 11/ 杉山照治・杉山瑛子展於静岡扇子屋(-10)。(朝日
駿豆,静岡,遠州版11/6,読売静岡B版11/6,静岡
11/7,8)
- 11/ 明治百年日本の銅版画展於浜松城郷土博物館
(-10)。(静岡11/1)
- 11/ 2 鈴木重光油彩色紙小品展於沼津富士急(-7)。
(静岡11/1)
- 11/ 4 中央美術静岡支部展於県民会館(-8)。
(静岡11/1)
- 11/ 5 野間仁根講演会於清水市中央公民館。
- 11/ 8 川端政雄展於清水戸田書店(-11)。(毎日中部版
11/7,静岡11/8,読売静岡B版11/8)
- 11/11 平野敬吉個展於新静岡センター(-20)。(静岡11/8,
15,毎日中部版11/12,読売静岡B版11/12,13,17)
- 11/13 県芸術祭第8回展於県民会館(-17)。(審査員:田村
一男,中原佑介,和田金剛,村上三島,上村松篁、
品川工,芹澤銕介,吉川弘)。(沼津朝日8/17,毎日中

- 部版8/17, 11/23, 静岡11/8, 14, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版11/13, 読売静岡B版11/13, 20, 中日遠州版11/13)
- 11/15 新井豊展於浜松遠鉄名店ビル(-21)。(中日遠州版11/12, 19, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版11/16)
- 11/16 第5回長岡現代美術館賞展於東京西武池袋店他(-27)。鈴木慶則《同位のイメージ》入選。
- 11/18 青光会清水寺奉納画展於県民会館。(静岡11/15)
- 11/19 「豪華な天平風呂」[安田鞆彦設計](静岡11/19)
- 11/19 行動展於浜松市民会館(-24)。(静岡11/15, 毎日西部版11/19, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版11/23)
- 11/21 江崎武雄素描展於新静岡センター(-30)。(静岡11/15, 21)
- 11/21 寺平誠介・田中憲之・田端勝清日本画三人展於静岡谷島屋書店(-27)。(毎日中部版11/21, 静岡11/22, 25, 読売静岡B版11/23)
- 11/ 鷺坂博規・鷺坂せつ子二人展於静岡扇子屋(-30)。(読売静岡B版11/26, 静岡11/28)
- 11/28 志村立美小品展於静岡松坂屋(-12/1)。(静岡11/22, 28, 29, 12/1)
- 11/30 長沢修而色紙展於沼津イナノ文具店(-12/1)。(沼津朝日11/26)
- 12/ 1 松本長十郎、小美術館公開。(静岡12/2)
- 12/ 見城春男小品展於静岡扇子屋(-10)。(朝日駿豆, 静岡, 遠州版12/4, 静岡12/5, 読売静岡B版12/5)
- 12/ 2 西村秀一油絵小品展於沼津東電サービスセンター(-8)。(沼津朝日・黎明11/29, 毎日東部版12/5)
- 12/ 5 渡辺照夫個展於東京芸生画廊(-25)。(静岡12/3, 毎日中部版12/7, 清美協no.72, 73)
- 12/ 7 蛍光菊展於ICAロンドン他(-S44.1/26)。
飯田昭二、鈴木慶則出品。(静岡12/9)
- 12/ 9 年輪の会油絵第2回展於県民会館(-15)。(毎日中部版12/8, 静岡12/9, 10, 12, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版12/11)
- 12/10 落合英男個展於静岡吉見書店(-15)。(読売静岡B版12/9, 11, 毎日中部版12/10, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版12/11, 静岡12/13)
- 12/ サロンド・エコール美術協会創立。(静岡12/12)
- 12/11 鈴木新一郎個展於静岡扇子屋(-20)。(静岡12/12, 読売静岡B版12/15)
- 12/ 一土会20周年記念展於静岡谷島屋書店(-18)。(静岡12/12)
- 12/ 虹人会展於新静岡センター(-20)。(静岡12/13, 読売静岡B版12/18)
- 12/12 「東洋電産株式会社 沼津の企業」(沼津朝日12/12, 黎明12/12)
- 12/13 風土第1回展於沼津富士急(-15)。(静岡10/7, 12/13, 沼津朝日11/12, 12/20, 沼津12/11, 読売静岡2版12/14)
- 12/ 伊東康近木版画展於静岡谷島屋書店(-25)。(毎日中部版12/20, 静岡12/23, 25, 読売静岡B版12/24)
- 12/20 武蔵野美術大学交友会展於静岡産業会館(-24)。(静岡12/13, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版12/18, 毎日中部版12/19, 読売静岡B版12/19, 20, 21)
- 12/21 青木一郎バリ作品展於県民会館(-24)。(朝日駿豆, 静岡, 遠州版12/18, 静岡12/20)
- 12/21 杉山青樹路個展於新静岡センター(-31)。(毎日中部版12/19, 20, 静岡12/19, 20, 27, 読売静岡B版12/21, 22, 25, 28)
- 12/ 自由美術静岡支部第1回展於静岡小谷画荘(-30)。(毎日中部版12/28)
- 12/ 斉藤磐・村田収・樽松貞雄三人展於静岡扇子屋(-31)。(静岡12/26, 27)

三島市郷土資料館のリニューアル 市民ボランティアと協働で進める博物館活動

三島市郷土資料館 平林 研治

はじめに

平成25年11月1日、三島市郷土資料館は耐震補強や常設展示の一新を行い、リニューアル・オープンした。当初は新館建設が計画され、平成22年度に建築物と展示双方の実施計画が作成され、翌23年度に着工する予定であった。しかし、平成22年度末に起こった東日本大震災などの影響により計画を1年延期し、検討を重ねた結果、既存館の耐震補強・リニューアルに方針転換することとなった。この方針転換は館職員としては残念であったが、新館建設基本構想で示された「展示から体験へ」というキーワードや「郷土愛を育む」といった目的はリニューアルにおける基本方針にも引き継がれた。リニューアルから5年間、基本方針に掲げた目的・目標を達成するため、様々な事業を展開したが、その中で最も大きな成果は郷土資料館ボランティアとの協働で様々な博物館活動を行い、館の事業の幅を広げられたことである。本報告では郷土資料館のリニューアルとその後5年間にボランティアとの協働で進めた博物館活動の成果を紹介し、今後の展望と課題について述べる。

1 新館建設計画から耐震補強・リニューアルへ

三島市は約1万年前の富士山の噴火に伴う溶岩流、三島溶岩の先端にあり、溶岩の隙間を縫い到達した富士山の雪解け水による豊富な湧水に恵まれてきた。また、東西に東海道、北に佐野街道(甲州街道)、南に下田街道が延びる交通の要衝で、江戸時代には東海道の宿場町として繁栄した。三島市郷土資料館では「湧水」「交通」という三島市域の特徴を踏まえ、この地域特有の多くの資料を収集・保存し、展示・教育普及に関わる多様な事業を展開している。

当館は昭和46年、市制30周年の年に三島の歴史・民俗を中心に展示を行う博物館、「三島市郷土館」として、市立公園楽寿園内に開館した。3階建て、延べ床面積893㎡(現在はエレベータ棟設置により935㎡)、1階に企画展示室と会議室、事務室、2階に民俗を中心とした常設展示室と収蔵庫、3階に考古・歴史を中心とした常設展示室と収蔵

庫を配していた(現在はリニューアルにより一部変更となっている)。昭和49年に登録博物館となり、平成9年「三島市郷土資料館」に名称変更し、平成25年には耐震補強・リニューアルを行い現在に至っている。市立公園楽寿園は明治時代に造られた小松宮彰仁親王の別邸をもとに昭和27年に都市公園として整備されたものである。公園内にある小浜池は昭和30年代までは豊富な湧水をほこる市内最大の水源地であった。現在、楽寿園には年間20~30万人の入園者があり、園内にある郷土資料館は入館者獲得の面では大きなメリットを得ている。しかし、公園の奥まった位置に立地しているため、入園者から認知されにくい、また、入館は無料だが楽寿園の入園料が必要になる、といった問題点も抱えている。

そのような中、平成21年度には耐震補強工事の計画が立ち上がった。また、同時に収蔵庫の不足、狭い展示室、楽寿園内の立地などの問題も検討され、それを解決するために楽寿園入口付近に新郷土資料館を建設することに方針が変更された。既存館の耐震性不足を早急に解決するため、平成22年度の1年間で基本構想策定から建築物・展示双方の実施設計までを完了させ、翌23年度に着工することとなった。

とんとん拍子に進んだ新館建設計画であったが、平成22年度も残りわずかとなった平成23年3月11日に東日本大震災が発生すると状況が一変する。震災後に想定される市の財政悪化や工事費の高騰などを見込んで着工は1年延期された。なお、新館建設の基本構想から実施設計までがわずか1年で策定されたものであり、市民の合意が十分に得られていないのではないかと、といった指摘が市内外からあり、これも着工が延期された要因のひとつとなった。その結果、平成23年度中の再検討を経て既存館の耐震補強・リニューアルに方針が変更された。

リニューアルに際しては、新館建設時の基本構想をもとに基本方針を策定した。それは、「展示から体験へ」をキーワードに、「郷土愛を育む」ことを目指したものである。具体的

には「郷土愛を育む」という目的の下に3つの方針を立て、リニューアル5年後の姿として3項目の数値目標を設けたものである。

3つの基本方針

(1) 博物館機能を充実する

適切に施設整備を行い、資料を散逸・滅失から守り、活用し、次世代へ継承する。

(2) 知る喜びを伝える

市民に知的レクリエーションの機会を提供し、体験学習の充実を図る。

(3) 協働と交流を図る

地域の関連施設や団体等と連携し、賑わいの創出や地域の活性化を目指す。

5年後の数値目標

(1) 年間入館者数6万人

平成22年度実績47,363人の約20%増

(2) 教育普及事業年間参加者数1,000人

平成22年度実績172人の約5倍

(3) 団体入館年間受入数30団体

平成22年度実績8団体の約4倍

2 郷土資料館のリニューアル

リニューアルは前述の基本方針に則って進めていった。まず、ハード面での整備内容の主なものを列挙していくと、以下ようになる。

- ・建築物の耐震補強
- ・エレベータと非常階段の新設
- ・多目的トイレの設置
- ・老朽化した照明や空調設備の一新
- ・鉄の窓枠をアルミサッシに交換
- ・外壁の断熱材を増強し、内壁や床を更新
- ・企画展示室の展示ケースを機密性の高い、調光可能なものへ入れ替え

このような施設・設備の改修を進めると同時に常設展示を全面的に更新した。展示製作は株式会社トータルメディアに委託して進めた。その特徴としては、2階は民俗、3階は歴史という分野の住み分けは引き継ぎつつ、「湧水」「交通」という三島の特徴を展示に反映させた点にある。

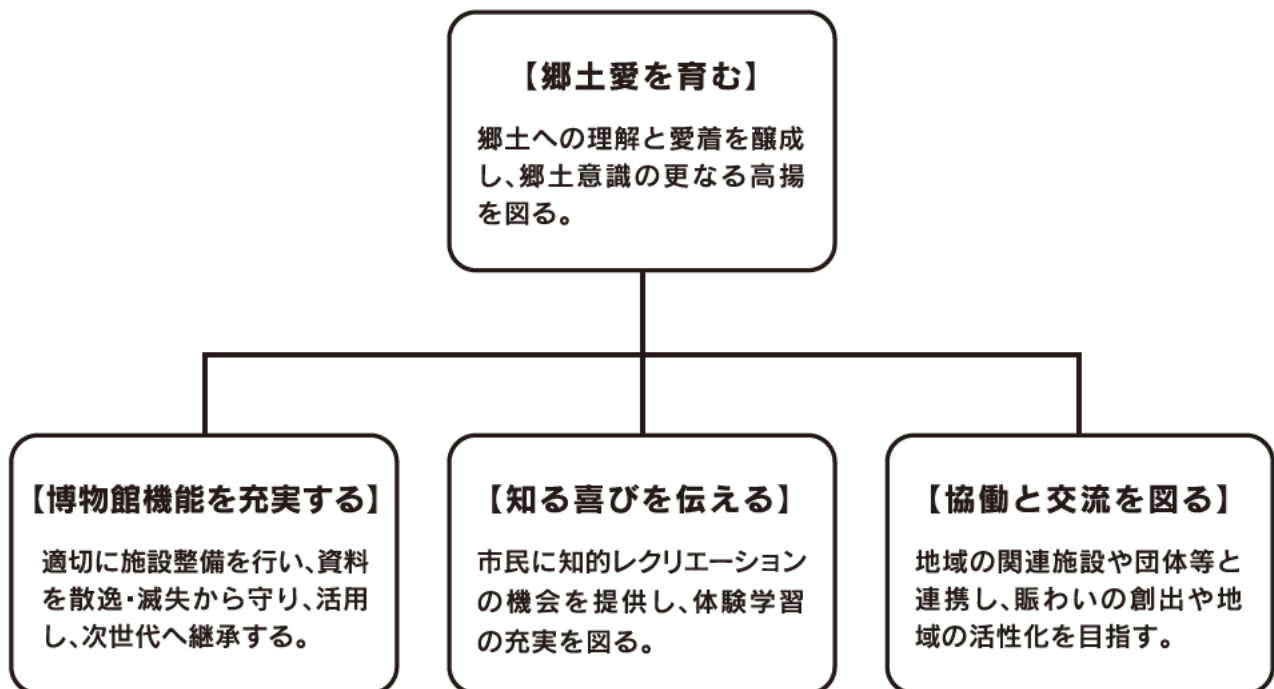


図1 郷土資料館リニューアルの目的

2階展示室では導入部で伊豆半島の地質的な特徴と富士山からの三島溶岩流について触れ、さらに昭和30年代の湧水量が豊富だったころの源兵衛川(市中心部を流れる湧水河川)の写真を大きく引き伸ばしたパネルを配置し、豊かな湧水に恵まれた三島の姿を示した。3階展示室では展示スペースの約3分の1を近世三島宿の展示に充て、交通の要衝として栄えた三島を紹介している。

また、2・3階ともに展示室の一角にテーブルとイスを配置し、展示室内で体験講座が実施できるようにしている。加えて、従来から2階に設置していた農家の復元展示では床を補強して人が内部へ上がれるようにし、ここを体験学習の場として活用できるようにした。その上で2,3階の常設展示室を「体験学習室」に、1階の会議室を「多目的室」に名称変更し、この3室で様々な体験学習を行えるようにした。常設展示室については、新規の展示ケースや映像機器は入れず、初期費用とその後の維持費を抑えた。

以上が施設・設備の改修および常設展示の更新の概要である。ただし、これはリニューアルの第一段階である。「展示から体験へ」という方針を実現するためには施設・設備のハード面での改修だけではなく、新たな事業展開がなくてはならないからである。そこで、体験を重視した講座・教室の拡充を目指した。また、そのためには幅広い講座のメニューとそれらを実施するマンパワーが必要となる。しかし、当館のような小規模館の限られた職員では拡充にも限界がある。この課題を解決するために、広く市民からボランティアを募集し、館とボランティアとの協働で事業を広げていくことを考えた。

3 郷土資料館ボランティアとの協働

3-1 郷土資料館ボランティアと郷土教室

まだ新館建設計画が「延期」状態であった平成23年度、その建設を前提として、1年間かけて郷土資料館ボランティア養成講座を実施した。講座は毎月1回、計10回の連続講座とした。講座期間中に新館建設が取り止めとなったときは、さすがに参加者の間に落胆が見られたが、ほぼ同様の方針でリニューアルを進めることとなったため、受講者の熱意はその後にも継続しているように見えた。全期間を通して出席率は高く、受講者38人の平均出席率は83%であった。養成講座終盤では郷土資料館でどのようなことができるかを話し合うワークショップを行い、その結果をもとに「昔まなび」「展示ガイド」「伝承あそび」「楽寿園の自然」の4つのグループ

を設けて翌年からボランティアの活動を開始することになった。その結果、ボランティアに30人が登録し、この活動がスタートした。



写真1 ボランティア養成講座(H23)

当時、郷土資料館では「郷土教室」と呼んでいる体験講座を年数回実施していた。そして、平成24年度からはボランティアの4つのグループとの協働によりこの事業を拡充していった。ボランティアのメンバーにはメニューの考案から準備、当日の実施、事後の反省まですべての過程に関わっていただき、現在では約30のメニューで年間20～25回程度の「郷土教室」を実施している。その主なものを以下に示したが、多くのボランティアによるアイデア出しと実現に向けての努力があつてはじめてこのように多様なメニューをそろえることができたと考えている。

◎郷土教室の主なメニュー

- ・昔の道具体験
(石臼、桿ばかり、製麺機、鯉節削り、足踏み式ミシン)
- ・紙漉き体験
- ・蚊帳の体験
- ・ワラ細工(正月飾り作り)
- ・古代体験
(勾玉づくり、火おこし、土器当てクイズ、弥生人の衣装)
- ・昔のあそび(こま、けん玉、缶ぼっくり)
- ・ブンブンごま作り
- ・オリジナルのメンコづくり
- ・鯉のぼり・カブトの紙工作
- ・三島の昔話の紙芝居上演

- ・富士山の溶岩観察
- ・楽寿園内溶岩観察ツアー
- ・葉っぱの拓本カードづくり
- ・ドングリ工作
- ・クラフトづくり(木工工作)
- ・立体浮世絵 立版古づくり
- ・江戸時代の旅人風衣装の体験
- ・屏風絵・宿場模型を使った三島宿の展示解説



写真2 郷土教室(鯉のぼり・カブトの紙工作)



写真3 郷土教室(クラフトづくり)

誌面の都合上、これらのメニューをひとつずつ紹介していくことはかなわないため、ここでは毎年の定番行事となった郷土教室「ワラ細工」を取り上げたい。これは「昔まなび」グループからの提案によるもので、ワラで縄を編み、正月用の輪飾りをつくるというものである。最初はメンバーの中に縄を編める人がおらず、ワラの調達方法もわからない状態からの

スタートとなった。縄編みの指導者はボランティアの、また、ワラは職員のツテをたどって確保することができ、その後の準備や縄編みの練習、当日の参加者への指導などはボランティアが主力となって事業を進めていった。縄を編むのに使うワラを用意するためには「ワラスグリ」と呼ばれる、ハカマ(枯れた葉の部分)を取り除く作業を行い、茎の部分に水をかけて木槌などでたたいて柔らかくする工程が必要となる。これがかなりの作業量で、毎年作業日を設けて、ボランティア・職員合わせて10人程度でワラくずまみれになりながら準備をしている。また、事業当日は縄編みはもちろん、ワラ自体にも触れた経験のない参加者も多いなか、ひたすらワラ細工の指導と補助を続けていく。参加者ひと組(1~数人)にひとり、講師役となるボランティアや職員が付く必要があり、講師役になれる人間をどれだけ揃えられるかが当日の事業実施を円滑に進めるうえでのカギとなる。毎年継続して実施していることから、ボランティア・職員ともに縄編みの経験を積むことができ、また、後年に加入したボランティアの中に縄編みができる方が複数いたため、ここ数年は毎回、50~100人の参加者を受け入れることができるようになり、ワラ細工の会場は大変な盛況ぶりとなっている。その結果、現在では参加者から「去年楽しかったから今年も来たよ」という声が聞かれるような、12月の定番行事となっている。



写真4 郷土教室(ワラ細工)

郷土教室「ワラ細工」が館の定番行事となるまでに成長した要因は事業のアイデア出しから事業化に必要なノウハウの蓄積（縄織いの技術の習得など）、事前の準備（ワラスグリなど）、当日の運営、次回への改善点の抽出まで、事業の各ステップにおいてボランティアの主体的な関わりを得られたことにある。これはボランティアとの協働で進めている他の郷土教室についても当てはまり、当館のような小規模館が体験型の事業を拡充するうえで非常に大きな力となっている。

3-2 文化財ボランティアの開始

郷土資料館は多くの歴史・民俗資料を収蔵しているが、地域に存在する文化財全体から見ればわずかなものに過ぎない。古文書などの歴史資料の多くは旧名家などの個人の家が所有しており、道祖神や馬頭観音などの石造物の多くは神社や町内会などによって管理されてきた。しかし近年、古文書を所有する家の代替わりや地域での開発事業などによりこうした文化財の散逸が起きている。また、地域の文化財の調査や保存活動の担い手の減少という問題も起きている。これまで地域で活躍していた郷土史家が高齢化し、地域の学校の先生たちによる郷土史研究も減少するなど、地域の歴史をよく把握している人たちが減少している。

近年のこのような状況は地域を活動の場とする郷土資料館にとって今後重大な問題となっていくと懸念された。そこで、これらの問題に対しても、教育普及事業でのボランティアとの協働の経験を活かし、あらたに文化財ボランティアを募集し、ボランティアとの協働により対処することとした。

平成28～30年度の3年間、郷土資料館が中心となり「三島地域資料研究会」を立ち上げ、文化庁の「地域と協働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業」の補助を受け複数の事業を展開した（補助事業名は年度によって異なる。）。平成28年度にボランティアの募集と養成講座を実施し、年度後半から「古文書整理の会」、「石造物調査の会」というふたつの活動を開始した。補助の終了した令和元年度以降は郷土資料館が事業を引き継ぎ、継続実施している。



写真5 ボランティア養成講座(H28)

古文書整理の会ではこの数年間で当館が寄贈を受けた古文書群の整理を行い、資料目録としてその成果をまとめている。古文書整理に当たっては、伊豆地域で古文書目録作成の実績のあるNPO法人伊豆学研究会の協力が得られ、事業を進めるうえで大きな力となっている。平成25年に寄贈を受けた「安久杉山家文書」は古書・古文書・掛軸など三千点を超える資料群であるが、そのうちの古文書を中心とした約2,300点について、平成29年度までに目録を刊行することができた。また、平成26年に寄贈を受けた「安久秋山家文書」は取り壊されることとなった秋山家の蔵から発見されたものであり、ホコリにまみれて資料のクリーニングを行うことから作業を開始した。現時点では約800点の資料について、ホコリ落としと粗目録の作成まで完了している。目録の公開には至っていないが、館での収蔵や展示には問題のない状態になっている。どちらもボランティアの力により、寄贈時の予想をはるかに上回るスピードで資料整理を進めることができた。



写真6 古文書整理の会

石造物調査の会では市内南部の中郷地区から調査を開始した。近隣では平塚市博物館の「石仏を調べる会」が長年にわたって活動を続けており、その豊富な実績を大いに参考にさせていただいた。それでもはじめは手探りで活動を始めなければならず、調査内容の不足から一度調査した石造物をもう一度補足調査する、というような例も多かった。行きつ戻りつを繰り返しながら進めてきた石造物調査であるが、3年目の平成30年度末には調査結果をまとめた『三島の石造物1 梅名・安久』を刊行することができた。現在はその隣の大場・中島地区の調査を進めており、順次調査報告書を刊行して調査結果を公表していく計画である。



写真7 石造物調査の会

3-3 郷土資料館ボランティアの特徴

現在、郷土資料館ボランティアには約70名が登録している。郷土教室の開催を中心に活動する「昔まなび」、「伝承あそび」、「楽寿園の自然」、「展示ガイド」の4つのグループと「古文書整理」、「石造物調査」の合計6つのグループが活動しているが、複数のグループに籍を置く方や、他グループの活動への手伝いに来てくださる方も多い。また、郷土資料館ボランティア以外にも何らかの生涯学習のグループやNPO・市民団体に参加している方の割合が高い。このような点が、ボランティア側から様々な実現性の高い提案がなされる要因になっているのではないかと感じている。なお、他団体に参加しているボランティアを通じてその団体との連携が生まれ、ボランティアの方に他団体での活動を活かして館主催事業での講師を引き受けてもらうなど、予想外の成果にもつながっている。

4 リニューアル5年後の成果

平成30年度でリニューアルから5年が経過した。基本方針の中で立てた目標は表1のような推移をたどり、すべての項目で目標を達成することができた。「入館者数」については楽寿園の入園者増やオンラインゲーム「刀剣乱舞-ON LINE-」とのコラボ企画(平成28~30年度)による来館者増など、外的な要因もあるが、リニューアルに伴う事業展開が数値にも表れたと考えている。次の「教育普及事業参加者数」では、郷土教室や講演会などの教育普及事業が平成22年度の実施回数8回、参加者合計172人から平成30年度の実施回数52回、参加者合計2,174人へと大幅に拡充を図ることができた。これはボランティアとの協働がなければ達成することができなかった目標である。「団体受け入れ数」は展示解説や体験学習など職員が何らかの対応をした団体数をカウントしている。平成30年度の受入団体33団体のうち18団体が市内・近隣市町の小学3年生となり、過半を占めている。これは社会科の昔のくらしの学習に合わせての受け入れであるが、昔の道具や暮らしの解説と石臼・桿ばかり・製麺機などの体験を組み合わせて対応するようにしている。子供たちの感想を見ると、やはり道具の体験が強く印象に残っているようである。体験事業はリニューアル後に始めた試みであり、このようなことができるようになったのもボランティアとの協働により郷土教室での体験メニューを充実させた成果であるといえる。

表1 リニューアル基本方針に掲げた目標と実績の推移

項目	H22	H25	H26	H27	H28	H29	H30	目標	達成状況
入館者数	47,363	20,541	48,026	59,395	69,798	65,930	63,702	60,000	○
教育普及事業参加者数	172	944	1,227	1,524	1,838	1,992	2,174	1,000	○
団体受け入れ数	8	13	21	26	28	26	23	30	○

5 今後の展望と課題

新館建設が既存館のリニューアルに変わったことでハード面での課題の多くは解決されずに残された。これらの課題は早急に解決できるものではないため、ここではボランティアとの協働に絞り、今後の展望と課題を述べることにする。

これまで述べてきたとおり、三島市郷土資料館はリニューアルを契機に市民ボランティアとの協働により博物館活動を広げてきた。資料の収集、保存、調査研究、展示、教育普及からなる一連の博物館活動のなかで保存、調査研究、教育普及の3つの活動にボランティアが参画している。その成果はまず、多くの熱心なボランティアが参画することでこれらの博物館活動が充実したことである。また、一般の来館者からは見えにくい資料の保存や調査研究にボランティアが関わることで、博物館活動全体に対する理解が深まり、個々の活動を越えた「郷土資料館の応援団」になってもらうことができた。そして、郷土資料館ボランティアの活動をとおして地域の自然や歴史への理解と地域への愛着を深めてもらうことができた点も大きな成果といえるだろう。

個々の活動を見ていくと、まだまだ発展段階のものも多く、後発の古文書整理や石造物調査に参加するボランティアの中には自分の活動に自信を持っていない方も見られる。しかし、それは学習意欲の裏返しでもあり、高い学習意欲はすべてのボランティアの方々に共通した特徴である。そのことから、ボランティアの方々が力量を上げられるような学習機会を提供することが郷土資料館の重要な役割であると考えている。

郷土教室という体験講座から始まったボランティアとの協働事業は古文書整理や地域の石造物調査といった資料の収集や調査に関わる活動にまで広げることができた。この経験を踏まえ、ボランティアとの協働という手法を他の博物館活動にも展開していき、郷土資料館が市民とともにつくる博物館になっていくことが今後の大きな課題である。また、これらの課題に取り組むことが、来館者に三島の歴史・文化を学んでもらい、この地域に愛着と誇りを持ってもらうという郷土資料館の目的を達成することにつながるものと考えている。

静岡県・神奈川県には博物館ボランティアや市民による博物館での活動が盛んにおこなわれている博物館がたくさんあります。郷土資料館ボランティアの立上げ前後にはこれらの博物館関係者の方々から視察の受入れ、情報提供、ご助言等様々なご支援をいただきました。この場をお借りし、感謝の意を表します。

研究ノート

須田国太郎の写真:滞欧期を中心に

上原美術館 齊藤 陽介

はじめに

従来、須田国太郎の滞欧期(1919~1923年)については、模写および写生を通じた油彩技法の研究と、当時最新の美術動向についての見聞を深めていたことを中心に語られてきた¹⁾。

一方で、滞欧期に撮影された写真からは、西洋の古代・中世の建築やそれに付随する彫刻、西洋の人々の生活や風土(山岳風景のみならず、都市風景など)への関心など、彼の幅広い関心がうかがえる²⁾。本稿では、須田国太郎邸に遺されていた写真について整理し³⁾、現時点で詳細が判明している写真の一部を紹介する。日記の記述とあわせつつ、彼が撮影した写真そのものに注目してみたい。

【写真群の概要】

今回調査した写真群の概要は下記表の通りである。

	項目	詳細
1	点数	99点(他作家の複製を除く)
2	被写体内訳	美術品66点(建築22点、彫刻33点、絵画11点)、市街風景ほか33点
3	撮影時期	滞欧期95点(1919年15点、1920年8点、1921年17点、1922年8点、1923年10点、未確定・不明37点)、帰国後4点
4	サイズ	四切大(約254×305mm)93点、その他6点
5	用紙	水彩画用紙、印画紙
6	色彩	全てモノクロプリント、うち3枚に手彩色あり

表1

【プリント用紙と手彩色について】

はじめに、写真のサイズや材料についてみておきたい。今回調査した写真の多くは四切サイズ相当の大判の用紙にモノクロでプリントされている。それらは写真用印画紙だけでなく、水彩画用紙にプリントされたものも多く見られる。またそうしたもののうち3点は水彩絵具による彩色が認められる(図1)。現像・焼き付け後、現地での印象をとどめるべく彩色を行ったのであろうか。日記には「起床十一時 写真屋」(1920年11月6日付)といった記述もあり、現地でも写真の現像・プリントや消耗品の購入などを行っていたことが推測される。また、一枚の用紙に複数のネガを焼き付けしたものもあり(図2)、それらを後で切り離した写真もある(図3)。留学中だけでなく、帰国後も撮影したガラス乾板などのネガをプリントして、自身の研究に用いていたかもしれない。



図1



図2



図3

【被写体】

次に、被写体についてみていこう。絵画、彫刻、建築からいくつかを紹介する。

1. インド、アジャンター石窟壁画、《菩薩立像》

11点撮影された絵画のうち、7点はインド・アジャンター石窟壁画が占めている。第1窟の天井画や壁画などを撮影しており、現在でも有名な《菩薩立像》(図4)などが含まれている。日記によると、1919年4月9日から14日まで滞在したことが伝わるものの、詳細は少ない。帰国後に書かれたアジャンター旅行記によると、当所の保護官による案内があったようで、そこでこうした有名な壁画を紹介されたのであろう⁵。



図4

2. イタリア、ラヴェンナ、サン・ヴィターレ聖堂モザイク《イサクの犠牲》《アブラハムの饗宴》

日記には「午後 S. Vitaleへ 内部は皆驚嘆に値す例のユスチニアヌスのmosaicoは中学時代よりなじみのもの」(1921年3月16日付)とある。ここで須田はローマ皇帝ユスチニアヌス帝と随臣たちのモザイクについて、中学以来のなじみであると述べている。今回調査した写真群には、《イサクの犠牲》と《アブラハムの饗宴》(図5)が描かれたモザイクの写真が残されている。



図5

3. ギリシャ、オリュンピア博物館、《オイノマオス像》《ヒッポダメシア像》

ヨーロッパからの帰国途中、須田はギリシャに3週間ほど滞在している(1923年5月7日～28日)。この写真には、オリュンピア博物館所蔵のゼウス神殿東破風彫刻群から2体が撮影されている(図6)。イタリアで目にした古代彫刻はローマ時代の模刻が多いと嘆いていた須田は、帰国直前にギリシャで模刻ではないオリジナルの良質な作例を目にすることができた。



図6

4. エジプト、カイロ、コプト美術館、《二人のブトーと十字架》ほか、《動物のフリーズ断片》(部分)ほか

カイロには帰国途中、1923年6月5・6日に滞在したことが日記から確認できる。図3右上に写った彫刻には、十字架を中心におくリースを二人のブトーが捧げ持っている。古代ギリシャ・ローマ美術で頻出するブトーと勝利を意味するリースに、キリスト教図像である十字架が組み合わされている。図2は4つほどの浮き彫り彫刻の断片が撮影されている。中央には《動物のフリーズ断片》の部分が撮影されており、植物の間を飛び跳ねる動物たちが装飾的な表現ながらも、生き生きと捉えられている。

5. スペイン、アヴィラ、サン・ヴィセンテ聖堂南門、《受胎告知》

日記には「S. Vicente 午後 写真 西」(1920年10月12日付)とあり、この写真(図7)が日記の記述に該当する可能性がある。この彫刻は聖堂南門向かって左側にあり、残されている写真は左右が反転しているものの、受胎告知の主題を表す本像の様子をよく捉えている。上原美術館には、この写真に写っているマリア像のデッサンが収蔵されており、こちらでは左右正しい向きで描かれている。須田の写真とそのデッサンが両方揃っている珍しい例といえよう。



図7

6. スペイン、レオン大聖堂、《最後の審判》

日記によると1920年11月15日から19日までレオンに滞在しており、大聖堂には写生に通っていることが分かる。写真については「朝はれる 電報くる Catedral 及 Isidro 写真 午後写生つづき」(18日付)とあり、晴天の朝に写真を撮影した可能性がある。《最後の審判》はファサード中央にあるタンパンの彫刻で、非常に鮮明に撮影されており、植物装飾の繊細な表現まで確認できる(図8)。



図8

7. スペイン、セヴィリア、スペイン王室宮殿内部

セヴィリアには1922年4月9日から17日まで滞在したことが日記から確認できるが、活動の記述は少ない。本写真からは須田がスペイン王室宮殿(アルカサル)を訪れたことが分かり、中でも圧巻の装飾が見られる大使の間の馬蹄型アーチを撮影している(図9)。



図9

8. イタリア、フィレンツェ、サンタ・マリア・デル・フィオーレ大聖堂

フィレンツェは須田が3回ほど訪れた街で、1921年2月8・9日に「Duomo」の文字が見える。須田はドゥオモの右袖廊と身廊およびクーボラが交わる部分を撮影している(図10)。撮影場所の選択としては、外壁の装飾に加えて、建築の面構造の展開を意識してのことだろう。中谷氏のいう「景観を面の展開として解釈しようとする視線」⁶がこうしたアングルの選択にも通底しているかもしれない。



図10

9. イタリア、ローマ、フォロ・ロマーノ

ローマには1921年2月14-28日、1923年4月18-24日と、比較的長い期間滞在して教会、美術館、遺跡と精力的に訪れている。フォロ・ロマーノについては、「東北端の forum romanum を見おろす辺りよし 夕日強くルインの大理石柱に映ゆ」(1921年2月16日付)、「午後写生のつもりで forum romanum へ 写生許さずとあつて絵具箱召し上げらる」(2月20日付)、「姑射君を訪う 川口君既に在り 共に forum romanum に散策 天気晴朗 頗る快 芝生に寝る 写真少々」(2月27日付)と度々訪れている。フォロ・ロマーノを撮影した写真(図11)は、映り込んだ遺構の配置から、セナトリオ宮のあたりから撮影されたようである⁷。ここは遺跡をちょうど見下ろす位置にあり、全体を一望することができる。



図11

おわりに

ここまで今回調査できた写真のごく一部を紹介してきた。写真を検討することで、従来、日記の欠落などによって詳細が不明だった彼の活動の一部が明らかになり、滞欧期の活動をより具体的に辿れるだろう。

今回調査した写真には、美術品ではなく市井の人々や街角を撮影したスナップ写真のようなものも多く含まれている。これらのなかには、人物に落ちる陰影を意識的に捉えたものも散見される(図12)。こうした陰影表現への関心は絵画研究の延長ともとれるが、詳細については別の機会に考察したい。今後、調査を進める中で、須田芸術における写真の位置づけについても検討していきたい。



図12

本稿で引用した須田の日記は次を参照。岡部三郎『須田国太郎資料研究』1979年、京都市美術館。

1 岡部、上掲書；中谷至宏「須田国太郎の滞欧期風景画」『京都市美術館年報 平成3年度』1992年、京都市美術館、54-59頁；永井隆則「須田国太郎と西洋近現代美術-孤高か共鳴か?」『美術フォーラム21』23号、2011年、醍醐書房、153-158頁；R. M. Bermejo, "A Japanese painter's quests: Suda Kunitaro's journey to Spain", *Pilgrimages and Spiritual Quest in Japan*, Ed. M. Rodriguez del Alisal etc., 2007, London and New York: Routledge, pp. 165-171.

2 須田が撮影した写真は、中谷氏によると200枚余り、下山氏によると数十枚とも言われている。中谷、56頁；下山肇「序・須田国太郎の画業-《筆石村》からの検証」『検証 須田国太郎の《筆石村》』展カタログ、1996年、静岡県立美術館、7頁。

3 今回対象とする写真資料は京都にある須田国太郎邸の整理作業でみつかったものの一部である。その他の須田邸に遺された資料としては、写真以外に絵葉書や複製ポスターなどがあり、一部は京都国立近代美術館にて整理がすすめられている。「座談会「須田国太郎」をどう捉えるか」『須田記念 視覚の現場』1号 2019年、醍醐書房、12頁。

なお本写真資料は現在、東京・白銅鞮画廊にて保管されている。筆者はそれらの写真をデジタル撮影して調査する機会に恵まれた。白銅鞮画廊には謝意を記したい。

4 印画紙のうち一部のものは、AGFA社のBroviraという用紙が使われている。

5 須田国太郎「アヂャンター壁画への追憶」『ひのもと』3月号、大東亜學術協會編、1943年3月、大和書院、6-10頁。

6 中谷、56頁。

7 この写真に写った遺構の配置から推測するに、須田が使用したレンズは35mmフィルム換算で、焦点距離90mm相当(画角27°)ほどの中望遠レンズのようである。

表2: 国別写真リスト

国	都市	数	詳細	推定撮影時期	図版No.
イタリア17枚	ラヴェンナ	1	サン・ヴィターレ聖堂モザイク、《イサクの犠牲》ほか	1921年3月16日	図5
	バルマ	1	洗礼堂、壁画《イエスの洗礼》(部分)	1921年3月19日	—
	ピサ	1	ピサ大聖堂	1921年2月2日～6日	—
	シエナ	2	シエナ大聖堂ファサード	1921年2月10日～12日	—
	フィレンツェ	1	サンタ・マリア・テル・フィオーレ大聖堂外壁	1921年2月8-9日	図10
		1	シニョーリア広場、バルトロメオ・アンマナーティ 《ネプチューンの噴水》		図1
		1	サン・ロレンツォ広場、バルトロメオ・バンディネッリ 《ジョヴァンニ・テッレ・バンテ・ネーレ記念碑》		—
	ヴェネツィア	2	サン・マルコ聖堂	1921年3月24日、25日、27日	—
		1	ドゥカーレ宮浮き彫り、《知恵の実を受け取るエヴァ》		—
		1	四人の王像(テトラルキア)		—
	ローマ	1	カンピドリーオ広場、マルクス・アウレリウス騎馬像	1921年2月27日	—
		1	カンピドリーオ広場、ローマ市庁舎(セナトリオ宮)前のローマの泉		—
		1	フォロ・ロマーノ、セプティミウス・セウェルス凱旋門		—
		1	フォロ・ロマーノ、サトゥルヌス神殿		—
		1	フォロ・ロマーノ、フォカス記念柱、カストル・ボルックス神殿ほか		図11
	オルヴィエート	1	オルヴィエート大聖堂浅浮き彫り、 ロレンツォ・マイターニ?《楽園追放》	1921年2月13日	—
	ポルトガル3枚	リスボン	1	ジェロニモス修道院南門	1920年1月2日～5日、25日
2		サン・ベドロ・デ・アルカンタラ展望台からの眺望	—		
スペイン14枚	トレド	1	サン・ファン・デ・ロス・レイエス教会内部、《聖ヴェロニカ》	1922年6月12日	—
		1	サンティアゴ・デル・アラバル教会のある眺望	1919年12月または1922年6月か	—
		1	サン・マルティン橋のある眺望	1922年6月11日	—
	グアダラハラ	1	グアダラハラ博物館、ライオンの中庭。	1922年9月24日～27日	—
	オヴィエド	1	サン・ミゲル・デ・リーリョ教会浮き彫り	1920年11月19日～24日	—
	アヴィラ	1	サン・ヴィセンテ聖堂南門彫刻、《受胎告知》。左右反転で焼き付け。	1920年10月12日	図7
	マドリード	1	《ゴヤ像》	1919年10月9日か	—
	ダロカ	2	市街からの遠望	1922年9月26日～10月2日	—
	セヴィリア	1	セヴィリア考古学博物館、《ティアナ像》	1922年4月9日～17日	—
		1	スペイン王室宮殿、大使の間		図9
		1	ヒラルダ塔からの眺望		—
レオン	1	レオン大聖堂のファサード中央タンパン、《最後の審判》	1920年11月18日	図8	
	1	レオン大聖堂の西ファサード、《聖母の死、聖母戴冠》		—	
ベルギー 1枚	アントウェルペン	1	聖母大聖堂のある眺望	1920年7月	—
ギリシャ 3枚	オリュンピア	1	オリュンピア博物館、ゼウス神殿東破風彫刻群より 《オイノマオス像》(左)、《ヒッポダメシア像》(右)	1923年5月20日、21日	図6
		1	《アンティノウス像》(背面)、デルフォイ考古学博物館か	1923年5月23日、24日	—
	アテナイ	1	バルテノン神殿北面	1923年5月7日～14日、25～27日	—
エジプト7枚	カイロ	1	《二人のブットーと十字架》ほか、コプト美術館	1923年6月5日、6日	図3
		1	《ダフネ?》、コプト美術館		—
		1	《動物のフリーズ断片》(部分)、《白鳥とレダ》(部分)ほか、 コプト美術館		図2
		1	《墓碑》、コプト美術館		—
		3	彫刻、コプト美術館		—
インド14枚	アジャンター	2	外観	1919年4月9日～14日	—
		3	浮き彫り彫刻		—
		2	第1窟 菩薩立像		図4
		2	第1窟 王と王妃(説話)		—
		1	第1窟天井画 饗宴の人物群、植物装飾		—
		2	壁画・天井画		—
	ワーラーナシー	1	ガンジス川、ヒンドゥー寺院のある眺望	1919年3月21日、22日	—
不明	1	市街風景	1919年3月5日～4月	—	
日本 4枚	大阪	4	河内金剛山	1924年以降	—
不明 36枚		1	二人の男性	1919-1923	図12
		35	—		—
		99			

第25回 ICOM (国際博物館会議) 京都大会 2019 報告

浜松市楽器博物館 嶋 和彦



最終日の総会における博物館定義の議論 (7日)

大会テーマ: 文化をつなぐミュージアム-伝統を未来へ-
Museum as Cultural Hubs : The Future of Tradition

日 時: 令和元年 (2019) 9月1日 (日) ~ 7日 (土)

会 場: 国立京都国際会館、稲盛記念会館 ほか

参加国・地域: 120 参加者: 4,590 発表者: 1,476

はじめに

日本の博物館界にとって念願であったICOM (国際博物館会議) 世界大会の日本開催がようやく実現し、令和元年 (2019) 9月1日 (日) から7日 (土) までに京都市で開催された。平成27年 (2016) のICOM世界大会ミラノでの公式決定後、ICOM日本委員会、京都大会組織委員会・運営委員会等の活動が本格稼働し、開催地の京都市、京都府をはじめ、官民一体となつての開催は、過去最多の4,590人の参加者を迎えて大成功に終わったと言える。令和2年 (2020) の東京オリンピック・パラリンピック開催ムードの影に隠れ、また、博物館関係者に限られた集まりということもあって、市井の話題に上ることは無かったが、人類存続の危機に瀕している現代社会において、博物館は従来のミッションを超えてどうあるべきか、ということが真剣に考えられた初の大会であったと言えよう。

筆者はICOMの構成要素である30の国際委員会の1つであるCIMCIM (楽器の博物館・コレクション国際委員会) の日本側連絡窓口担当で、平成28年 (2017) からICOM京都大会運営委員会メンバーとなり、諸々の準備と大会期間中のCIMCIMのプログラムをオーガナイズしてきた。大会は、午前中は全体に関するセッション等、午後は各国際委員会の会議や全体セッション、夜はソーシャルイベントというプログラムで、全てに参加することは不可能であるため、本稿では筆者の所属するCIMCIMのプログラムを中心に報告し、今大会の成果と今後の課題について簡単にふれたい。

CIMCIM (楽器の博物館・コレクション国際委員会)

国際委員会は委員会毎に毎年世界のどこかで年次会議を開催するが、ICOM世界大会開催年は、全委員会が世界大会開催地で開催する。従って、異なる国際委員会との合同セッションも可能となり、今回もCIMCIMをはじめ多くの委員会合同セッションが見られた。

日 程:

9月2日 @京都国際会館: 開会式。

@稲盛記念会館: 柳川三味線歓迎演奏; 研究発表。

9月3日 @京都国際会館: CIMCIM総会; 研究発表。

9月4日 @株式会社鳥羽屋: 絹紬製造工程見学。

@京都国際会館: CIDOCと合同セッション;
研究発表

9月5日 @国立民族学博物館: オフサイトミーティング

ICMEと合同セッション- 研究発表、博物館見学。

9月6日 @浜松市楽器博物館: 自主エクスカージョン

博物館、市内・近郊の楽器製造工場見学。

CIMCIMの参加者は70人程度、うち発表者は17カ国40人であった。発表者の国別内訳は、イギリス6、ドイツ5、フランス3、スイス1、ノルウェー2、ロシア1、オランダ2、アメリカ6、ナンビア1、ブルキナファソ1、ジンバブエ1、アゼル

バイジャン1、イラン1、中国3、台湾2、日本4である。他にインドネシア、アルゼンチン、クウェートが参加した。

平成27年(2016)ICOMミラノ大会後のCIMCIM新役員の下、個人会員数は50%増加し、地域もアジアやアフリカに拡大した。欧米主体の楽器学や音楽学に加えて、非西洋楽器の考察、楽器学や音楽学以外からのアプローチも積極的に推奨されてきた。昨年に続きアフリカ、アジア諸国からの参加があり、多様な観点からの発表や、CIDOC(ドキュメンテーション国際委員会)、ICME(民族学の博物館・コレクション国際委員会)との合同セッションの実現はその成果である。

CIMCIMテーマ: Music Museums and Education

Music Museums and EducationはICOM京都大会のテーマMuseums as Cultural Hubsにつながるものとして位置づけられ、楽器や音楽を、研究者や演奏家等との1対1の関係のみではなく、近年の博物館の社会的役割、とりわけ教育への積極的な関わりや、教育に対して持つ潜在的な力についての様々な事例や研究を取り上げ、音楽や楽器の博物館の今後のあり方を探ろうとするものであった。セッションは次の10のテーマ(CIDOC、ICMEとのジョイントも含む)で構成され、33の発表がなされた。

- 1 Sound Spaces
- 2 Conservation Best Practices
- 3 Higher Education and Professional Training
- 4 Collection Highlights : East and West
- 5 Ancient Traditions
- 6 Making and Sustaining Museums and Communities
- 7 The Documentation of Music and Musical Instruments (CIDOCとのジョイント)
- 8 School Systems and Educational Programs
- 9 Education and Exhibitions
- 10 Diversity and Universality (ICMEとのジョイント)

セッションの概要

2日は、京都にのみ伝承する柳川三味線の演奏で幕開けし、日本での開催にふさわしいものとなった。続いてテーマ1~4の発表があった。イギリスのヴィクトリア&アルバート博物館が数年後にオープンを予定している音響展示や、台湾のCHIMEI博物館が開設したAVによる体感型オーケストラ展示、ジンバブエの教員養成大学でのダンスと音楽を統合した教育実践、ベルリン国立楽器博物館の、日本人物理学者田中正平が1893年にベルリンで製作した純正調オルガン

についての報告などが印象的であった。

3日以降は5~9のテーマで、少数民族のアイデンティティとしての楽器や音楽、古代音楽と儀式からの歴史の理解、消費社会における楽器、伝統音楽の現代から未来への伝承等の取り組みが発表され、「楽器・音楽」が、音楽家だけでなく、社会の人々といかに関係するかについての考察が深められた。

4日の午前中は京都に江戸時代から続く絹紬の老舗製造工房である鳥羽屋にて絹紬の製造工程を見学、日本の絹紬文化の歴史と技術を見ることができた。午後はThe Documentation of Music and Musical InstrumentsをテーマにCIDOCとのジョイントで、音楽と楽器についての記録と発信の方法について様々な角度から発表された。

午後は武蔵野音楽大学楽器博物館の脇谷真弓氏より「博物館における日本伝統音楽教育の意義」と題して、子供を対象とした、学校教育では取り上げられることの少ない日本の伝統音楽や楽器についてのワークショップについて、また浜松市楽器博物館からは「他機関と連携した音楽と楽器によるジョイントプログラム」と題して、中学校の国際理解授業や、楽器の絵を羊毛フェルトで描くワークショップなどが筆者により発表された。

5日は会場を移してのオフサイトミーティングを、ICMEとのジョイントで、国立民族学博物館(大阪)で開催した。CIMCIMメンバー約40人が参加。午前中は博物館を見学、午後はDiversity and Universalityのテーマでシンポジウムを開催。吉田憲司国立民族学博物館長による基調講演「文明の転換点における民族誌博物館」、筆者による基調講演「楽器は音楽を超えて語る」の後、ガブリエッレCIMCIM委員長、ヴィヴICME委員長、飯田卓国立民族学博物館教授が加わり、さらにフロアも交えて意見交換を行った。

6日は、大会全体のプログラムとして、京都府市を中心とした多様なコースへのエクスカージョンであった。CIMCIMは予めより浜松市楽器博物館を観たいという声があったため、希望者による浜松市楽器博物館ならびに浜松の楽器メーカー見学ツアーを実施し27人が参加した。博物館見学と、世界最大の楽器メーカー・ヤマハ株式会社の企業ミュージアムであるヤマハ・イノベーションロードの他、近郊に位置するヤマハ管楽器工場、河合楽器ピアノ工場を見学した。また楽器博物館にて、コレクションである江戸時代の尺八と箏の演奏を披露した。現代の最先端の楽器作りと製品、江戸時代のスタイルを残す伝世楽器とその音楽、の対照的な日本

文化に触れていただいた。

総じて、従来の西洋音楽と楽器学中心の視点のみならず、非西洋音楽と民族の文化についての視点をCIMCIMメンバーが共有し、また日本の文化も可能な限り味わっていただけた有意義な大会であった。

補足だが、大会中は、午前午後は会議であるが、夜間は下記の通り京都市内でソーシャル・イベントが催され、参加者は日本の文化と参加者相互の交流を楽しんだ。

2日 @京都国際会館 開会パーティ

3日 @二条城 見学

4日 @植物園ほか北山エリア 見学

5日 @京都国立近代美術館、平安神宮ほか岡崎エリア 見学

6日 @京都国立博物館 閉会パーティ

(ほかにも金剛能楽堂での能狂言鑑賞や、ペチャクチャナイトなどのイベントがあった)

CIMCIM京都セッションの評価と課題

CIMCIM役員会や参加者からは一様に、「多様な観点から数多くの研究発表があり、他国際委員会との合同プログラムを開催でき、これまでの連携や協力もさらに強めることができた。また大会本部による数々の日本文化体験プログラムのみならず、京都に存在する老舗絹紬製作工房の見学や三味線の歓迎演奏などのCIMCIM独自の日本文化プログラムが体験できた。京都でのICOM世界大会ならではの大変素晴らしいものであった」との意見をいただいた。

今後の展望

今回改選された新役員の方針は、今後とも他の国際委員会との連携や共同プログラムに取り組み、広い分野の博物館との連携を強化して、現代社会の中で音楽と楽器の博物館がなすべきことを探っていきたいとのことである。欧米ではすでにその具体的な展開が始まっている。日本の楽器博物館として最大の課題は、欧米の動向に遅れないようにすること、音楽という狭い世界を脱して、人類文化の中での音楽や楽器の役割、現代社会における社会的使命を考えていくことであろう。

大会全体について

ICOM京都大会テーマ「文化をつなぐミュージアム- 伝統を未来へ Museum as Cultural Hubs : The Future

of Tradition」は、「地球環境規模の気候変動や貧困、紛争、自然災害、人権の抑圧、環境問題などを背景に、国際的に政治・経済・社会が大きく変容を遂げている中で、平和で持続可能なよりよい未来を構築するために博物館が果たすべき役割を考えることが、ますます重要になってきているのです」(ICOM京都大会報告書)との考えのもと、様々な館種や他の施設・機関との連携や協同を視野に、博物館の定義の再考、またそこから見えてくる博物館の課題と今後求められる改革のあり方を考えるためのキーワードとして設定された。博物館の最も基本的な使命である「過去から継承した有形無形の文化遺産の保存」(同)を厳守しつつ、「伝統を大切にしながら新しい未来を創造するために博物館が果たすべき役割を考えたい」(同)という願いを表わしたものである。

全体会議の基調講演ならびにプレナリーセッションで取り上げられたのは、やはり現在我々が直面する様々な地球規模の課題である。プレナリーセッションのテーマは、「持続可能な未来の共生」「被災時の博物館」「世界のアジア美術とミュージアム」「博物館定義の再考」で、Sustainability, Diversity, Inclusion, Engagement, Equality, Decolonization といった言葉がキーワードである。

また開会式で秋篠宮皇嗣殿下からは、ご自身が博物館で保管されている標本で研究なさった経験から、「(博物館の資料が)いつ利用されるのかという直近の問題ではなく、将来、それらの標本類をもとに研究をするかもしれない人たちのためにも、保存と継承がなされているものです。そのことが、私たち博物館の利用者にとって、もっとも大切な意義であると考えております。」「多くの事柄が急速に変化する現代社会にあって、時間を超えて、万有の蓄積装置として、そこに存在していることこそが、今日の博物館において最も求められていることなのではないかと思います。」と述べられ、博物館の意義と未来について心強いお言葉をいただいた。

最大の課題であった博物館の新定義については、白熱した議論が展開されたが、採決は2020年6月パリでのICOM総会まで延期されることになった。これは、決して意見が否定的に対立しているからではなく、さらに真剣に誠実に世界の博物館人がより深く考えたいということからである。

まとめ

今や、博物館は、従来からの使命とされる収集保存・調査研究・展示公開・教育普及という活動のみでは不十分とされる時代となった。社会貢献や社会の課題の解決への関与という

新たな大きな役割が必須とされるのが世界の動向である。

このICOM京都大会では多くの日本人が参加したが、世界の博物館の動向と博物館人の熱心な議論を目の当たりにし、日本の博物館界の良さも悪さも改めて認識したに違いない。大会テーマのMuseums as Cultural Hubs: The Future of Traditionは、参加者に大きな共感を与えたと思われる。大会を一過性の行事に終わらせず、何かレガシーを残し発展させていかねばならないが、これは行政や事務局のみに任せておけばよいというものではないだろう。現場の学芸員や博物館職員自らが率先して関わらなければいけないことなのである。

ICOM大会決議

最後に、今大会で採決された決議案5つと、現行の博物館定義、新しい定義の案を掲載しておく。ICOM京都大会の詳細はWebサイトを参照いただきたい。

<https://icom-kyoto-2019.org/jp/>

<https://www.facebook.com/icomkyoto2019/>

- 1 『我々の世界を変革する:持続可能な開発のための2030アジェンダ』の履行
- 2 アジア地域のICOMコミュニティへの融合
- 3 『Museum as Cultural Hubs』の理念の徹底
- 4 世界中の収蔵庫のコレクションの保護と活用に向けた方策
- 5 博物館、コミュニティ及び持続可能性

新定義案

Museums are democratising, inclusive and polyphonic spaces for critical dialogue about the pasts and the futures. Acknowledging and addressing the conflicts and challenges of the present, they hold artefacts and specimens in trust for society, safeguard diverse memories for future generations and guarantee equal rights and equal access to heritage for all people. Museums are not for profit. They are participatory and transparent, and work in active partnership with and for diverse communities to collect, preserve, research, interpret, exhibit, and enhance understandings of the world, aiming to contribute to human dignity and social justice, global equality and planetary wellbeing.

博物館は、過去と未来に関する批評的な対話のための、民主化を促し、包摂的で、様々な声に耳を傾ける空間である。博物館は現在起こっている紛争や課題を認識し、それらを考察しつつ、社会のために託された資料や標本を保管し、未来の世代のために多様な記憶を保全し、すべての人々に遺産に対する平等な権利と平等なアクセスを保証する。博物館は営利を目的としない。

博物館は、開かれた公明正大な存在であり、人間としての尊厳と社会正義、世界的な平等と地球全体の幸福に貢献することを目的に、多様なコミュニティと手を携えて収集、保存、研究、解釈、展示並びに世界についての理解を深めるための活動を行う。(ICOM日本委員会仮訳)

現行の博物館定義(ICOMウィーン大会2007採択)

A museum is a non-profit, permanent institution in the service of society and its development, open to the public, which acquires, conserves, researches, communicates and exhibits the tangible and intangible heritage of humanity and its environment for the purposes of education, study and enjoyment.

博物館とは、社会とその発展に貢献するため、有形、無形の人類の遺産とその環境を、教育、展示、楽しみを目的として収集、保存、調査研究、普及、展示する公衆に開かれた非営利の常設機関である。(ICOM日本委員会訳)



浜松市楽器博物館見学(6日)



鳥羽屋見学(4日)



筆者の発表(4日)

つくものと思われる。

最後に本作の史料的价值を改めて指摘して、本論を締めくくりたいと思う。以上のような仮説が認められるのであれば、建久四年書写『阿毘達磨俱舍論』は、願主である玄智という人物を通して、南都・興福寺と伊豆・走湯山との繋がりが推測される写経という位置づけになる。前述のとおり、走湯山に天台、真言が入っていたことは多くの先行研究により言及されているが、興福寺との関係性はあまり触れられてこなかったように思われる。玄智の走湯山内での具体的な立ち位置は詳らかでないが、本作は走湯山と南都の関係を示唆するものであり、ひいては東国と興福寺の関わりを考えるうえで二つの証左となり得るのではないだろうか。

〔註〕

- (1) 田中塊堂編『日本古写経現存目録』(一九七三年、思文閣)。その他に、この書籍から引用し、『静岡県史 資料編五 中世一』(一九八九年、静岡県)、『伊賀市史 第四巻 資料編 古代・中世』(二〇〇八年、伊賀市)にも収録されている。
- (2) なお、巻第十と巻第十五については実見できていない。前註1参考文献によると、巻第十の所蔵者は東大寺別当を務めた筒井英俊氏とあり、現在も個人蔵と思われる。巻第十五は新潟郷土博物館(廃館)の所蔵と明記されているが、現在は五島美術館の所蔵となっていることが分かった。新潟郷土博物館が発行した『本邦古写経展観目録』(一九四二年、新潟郷土博物館)にも巻第十五は収録されているが、この目録の序文によると、収録されている写経はいずれも五島慶太氏所蔵の古写経を借用し、展示したものであったという。詳細は不明であるが、このような経緯から、新潟郷土博物館の所蔵になっていた時期があったのだろうか。
- (3) 『阿毘達磨俱舍論』、俱舍宗については以下の文献を参照した。
 - ① 『俱舍宗』、「俱舍論」(解説:大野達之助)『国史大辞典 第四巻』(一九八四年、吉川弘文館)。
 - ② 『阿毘達磨俱舍論』(解説:吉元信行)『大蔵経全解説大事典』(一九九八年、雄山閣出版株式会社)。
- (4) 『伊賀市史 第一巻 通史編』(二〇一一年、伊賀市)。
- (5) 『日本歴史地名大系第二四巻 三重県の地名』(一九八三年、平凡社)。
- (6) 前註4文献参照。
- (7) 『伊賀市史 第四巻 資料編 古代・中世』(二〇〇八年、伊賀市)。
- (8) 前註4文献参照。
- (9) 亀田孜「奈良時代の祖師像と俱舍宗曼荼羅図」(『仏教芸術』第一号、一九四六年)。
- (10) 前註9文献参照。
- (11) 前註9文献参照。
- (12) 谷口耕生「俱舍曼荼羅と天平復古」(『仏教美術論集 様式論—スタイルとモードの分析』二〇一二年、竹林舎)。

(13) 『東大寺統要録』佛法篇(筒井寛秀監修、東大寺統要録研究会編纂・校訂『東大寺統要録』二〇一二年、国書刊行会)。

(14) 永村真「東大寺講衆集団の存立基盤」(『中世東大寺の組織と経営』一九八九年、塙書房)。

(15) 走湯山(伊豆山神社)の歴史については以下の文献を参照した。

① 『三浦古文化』第三十号「伊豆山神社特集」(一九八一年、三浦古文化研究会)。

② 奈良国立博物館編『伊豆山神社の歴史と美術』(二〇一六年)。

(16) 前註13文献「東大寺統要録」供養篇末建久記参照。

(17) 東寺百合文書WEB(京都府立京都学・歴史館、<http://hyakugo.pref.kyoto.lg.jp/>、二〇一二年二月十日時点)。

(18) 信教得業については以下の文献を参照した。

① 根井浄「大夫坊覚明と『平家物語』」(『印度学仏教学研究』三二第二号、一九八三年)。

② 佐々木紀二「矢田判官代在名・大夫房覚明前歴」(『米沢史学』第一七号、二〇一一年、米沢史学会)。

(19) 『箱根山縁起并序』(神道大系神社編二二一三島・箱根・伊豆山)(一九九〇年、神道大系編集会)所収。

(20) 佐々木紀二「北条時家略伝」(『米沢史学』第十五号、一九九九年、米沢史学会)。

(21) ① 瀬谷貴之「東国武士と運慶」(『山本勉監修『運慶—時空を超えるかたち—』所収)、『別冊太陽』(日本のごころ 一七六号)(二〇一〇年、平凡社)。

② 瀬谷貴之「総論 運慶 — 中世密教と鎌倉幕府 —」(『神奈川県立金沢文庫編『運慶 中世密教と鎌倉幕府』図録所収、二〇一一年)。

(22) 牧野あき子「瑞林寺地藏菩薩坐像の銘文と仏師康慶」(『美学・美術史学科報』二十八号、二〇〇〇年、跡見女子大学)。

〔付記〕

① 情報のご提供をいただきました、東大寺総合文化センター様、五島美術館様、新潟県教育庁文化行政課様、新潟県立歴史博物館様、新潟県立文書館様、新潟市歴史博物館みなとびあ様、ご協力いただきました皆様に深く御礼申し上げます。また、本論の執筆にあたっては東京大学史料編纂所データベース、東寺百合文書WEB(京都府立京都学・歴史館)を活用させていただきました。

② 本論の主旨から外れるので論及は控えるが、「東大寺供養請僧交名案」で弁海の名前が記された左下には、同じく東大寺の梵音衆として「運慶」の名前が記されている(図5)。この「運慶」が仏師運慶を指すかは定かではないが、建久六年の「東大寺供養會僧交名」(註16「東大寺統要録」)では梵音衆の中に「運慶」の名前が見られない一方、供養の勸賞を記した「東大寺供養會勸賞目録」(『東大寺統要録』)には、「法眼運慶」の名前が見られる。

六 走湯山と興福寺の関係

前章で指摘したように、玄智を興福寺僧、弁海を東大寺僧と仮定した場合、弁海が東大寺僧であることは、東大寺の荘園が周圍に存在する河合に住んでいたことと矛盾しない。一方で、興福寺の僧が走湯山に住んでいるという状況はどのように理解すればよいだろうか。その点を補足しておきたい。

反平氏方の姿勢をとっていた興福寺と、源頼朝の崇敬を得ていた走湯山との間に開わりが早くあつた可能性は十分に考えられるが、走湯山内における興福寺僧の動向は詳らかではない。走湯山との直接的な関係性を示唆する内容ではないが、興福寺と伊豆地方の関係がうかがえる例をあげておきたい。

まず初めに、興福寺と伊豆地方の開わりがある人物として、平清盛を批判した廉で南都より箱根山に逃れてきた信救得業の存在が挙げられる⁽¹⁸⁾。信救は大夫房覚明とも名乗り、木曾義仲の右筆として知られ、箱根神社の縁起である『箱根山縁起并序』を著した人物としても名前が伝わっている⁽¹⁹⁾。現在、室町時代の写本が箱根神社に伝わる『箱根山縁起并序』の奥書には、建久二年(一九一)七月二五日の日付とあわせて「別當行實」、「南都興福寺住侶信救誌焉」と記されており、箱根山別当である行実と共に縁起の筆者と推測されている。『俱舍論』が書写された建久四年と同時期に、走湯山と隣接する箱根山において、興福寺僧の活動を伝える記録である。

続いて、近年見直されているのが、伊豆国を本拠とする北条時政の出自である。時政の父または祖父と考えられている伊勢平氏の庶流であった平時家が、在庁官人の北条介に婿入りし成立したのが後の北条氏とする、佐々木紀氏の説がある⁽²⁰⁾。時家の娘は大和源氏に入っているが、その息子が平安時代末期に興福寺の上座に補任され、保元の上座を務めている有力僧を輩出している家系であったという、重要な指摘がなされた。ここから、鎌倉幕府が、興福寺を拠点とする奈良仏師の成朝や運慶を採用した背景として、時政の親戚に興福寺僧がいたことの意義を積極的に認める意見が瀬谷貴之氏により出されている⁽²¹⁾。

なお、運慶の父・康慶を作者とする、静岡県・瑞林寺の地藏菩薩坐像の像内銘記には、治承元年(二七七)の製作年の他、箱根山別当行実と思われる名前が確認されている⁽²²⁾。成朝・運慶が鎌倉幕府に関する造像を行う以前より、奈良仏師(興福寺)と

東国間に繋がりがあつたことが推測される事例である。

以上の先行研究からは、十二世紀の半ば頃には伊豆地方において興福寺との開わりが存在していたとみることができ、走湯山に興福寺僧が住んでいたという状況を想定することも、決して荒唐無稽な話ではないと言えるだろう。

ところで、玄智は「走湯山住」「禪如房」、弁海は「河合住」「境妙房」というように、房号はみられるが所属寺院名を記していない。その理由を考えると、やはり建久年間という時代背景が影響しているのではないかと思われる。建久四年は、治承四年(一一八二)に南都が焼亡してから十年の歳月が経っているが、建久六年の供養が行われる以前であり、依然と再興事業は続いている。ましてや、東大寺、興福寺が焼亡した直後は、日常生活を送るには程遠い環境であつたと思われる。あるいは信救のように平氏から逃れるように東国を訪れた人物もいただろう。そんな僧侶たちは再興事業の活動も兼ねて、一種の疎開状態にあつたのではないかと想像される。それ故に、所属が明確ではなく、自身が所属する寺院名を肩書に使用せず、「走湯山住」「河合住」というように、仮住まい的な意味合いで「住」という表記を用いた側面があつたのではないだろうか。

七 おわりに

本論では、上原美術館の所蔵する建久四年書写『阿毘達磨俱舍論』卷第十二を中心に、その製作背景の考察を行った。まず、建久四年に『俱舍論』が書写された理由については、時期的に俱舍三十講や世親講などを通して俱舍学が活発になつていった歴史背景との関係が指摘できる。このように『俱舍論』を講読し、学習するための「講」という共同体の場、ネットワークが存在したからこそ、伊賀国と伊豆国という離れた土地において、別の寺院に所属する僧侶らが共同で写経を実施するに至つたのではないだろうか。

このような「講」を通じた繋がりを想定した場合、建久四年書写『俱舍論』の願主として記される走湯山住玄智と阿閉郡河合住弁海は、東大寺の供養に参列している興福寺僧玄智および東大寺僧弁海と、同一人物である可能性が想定される。現存する写経からの推測になるため可能性の指摘に留めるが、玄智を純粋な走湯山の僧侶と解釈するのではなく、興福寺に所属する僧侶ではあつたが、なんらかの理由で走湯山に滞在していたという状況が推測される。そのように仮定することで、伊賀国で行われた写経事業に伊豆国走湯山の僧侶が関与している状況に対しても、一応の説明は

その後、建久六年(二九五)には、世親の絵像を本尊として奉る世親講が、俱舎三十講とは別に東大寺において開催されており、世親講においても『俱舎論』が講じられた¹³⁾。

これら俱舎三十講と世親講の経費のうち、饗膳料は諸荘に負担が分担されていたという。その費用である俱舎三十講米と世親講米は伊賀国、大和国、山城国の荘園にそれぞれ賦課されたといい、その中には阿閉郡の玉瀧寺や、湯船荘、内保荘、輛田荘、玉瀧荘も含まれていたとの水村眞氏の指摘は注目される¹⁴⁾。

このように、平安時代後期から鎌倉時代にかけて、東大寺を中心に『俱舎論』を研学する「講」が整備されていた様子がうかがえる。玄智と弁海が『俱舎論』を發願した理由までは、奥書に記されていないものの、建久四年は本章で述べてきたように俱舎学が積極的に学ばれた時代であったと言つてよいだろう。むしろ、具体的な願意が記されていない点や、巻第十二の文中に振り仮名のある文字が見受けられる点を考慮するならば、本作が学習のための写経であったと考えることも可能であろう。以上のような歴史背景を鑑みるに、建久四年に書写された『俱舎論』は、十二世紀の俱舎学復興の文脈で捉えるべき写経と位置づけてよいと思われる。

五 玄智と弁海について

以上の検証から、建久四年に『俱舎論』が伊賀国阿閉郡で書写された点、その背景として南都において俱舎学の研学が活発になっていた点を指摘した。これらを踏まえ、たうで、願主である玄智と弁海について考察を加えてみたい。

玄智は建久四年の時点で三四歳、弁海は四十歳なので二人は同世代と言つて差し支えないだろう。奥書を素直に受け取るならば、走湯山に住んでいる玄智と、阿閉郡河合に住んでいる弁海が『俱舎論』の書写を發願し、弁海が阿閉郡内において書写したということになる。伊豆国と伊賀国という離れた場所に住む兩名が写経を行うにあたり、なんらかの接点が想定されるが、東大寺ゆかりの河合に住む弁海はまさしく、走湯山の玄智が『俱舎論』を發願する意図がいま一つ明確ではない。

現在、伊豆山神社と呼ばれている走湯山は、伊豆国が修験道の開祖・役小角の配流先であったため、伊豆地方における修験の中心地となつてきた。一方で記録や残された

仏像から、神宮寺である東明寺や密教寺院にみられる常行堂などがかつては存在し、天台・真言密教が入つていたことが判つている¹⁵⁾。俱舎学復興の中心となつたのが、醍醐寺を開いた聖玉ゆかりの東大寺東南院ということから、真言宗を通して走湯山にも俱舎学の流れが入つていた状況を想定することも可能だろうか。

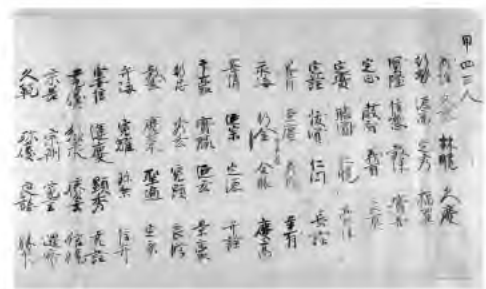
走湯山と俱舎学の関わりについては、現時点では明確な回答を持ち合わせていないが、玄智と弁海を南都の僧侶と仮定した場合、この問題に対しても説明が可能ではないかと思われる。ここで注目されるのが、建久六年(二九五)の東大寺供養に参列した供僧名を記す、「東大寺供養會僧交名」(『東大寺統要録』)の記録である¹⁶⁾。この史料では、供養に参列した僧名と役割が所属寺院ごとに記されており、興福寺所属の衲衆として玄智の名前が、専寺(東大寺)所属の梵音衆として辨海(弁海)の名前が確認できる。

この供養名簿の草案となる「東大寺供養請僧交名案」(東寺百合文書、な函三三三)も伝わっている¹⁷⁾。この名簿は建久供養の前年、建久五年(二九四)十二月二六日に記されており、この時点で既に二人の名前が記されている(図4・5)。

建久四年書写『俱舎論』の奥書と共通する人物名が、少なくともその翌年には南都の僧侶として、同じ法会の場合に名を連ねている事実は注目に値する。これら建久の東大寺供養に関する史料の存在から、走湯山住玄智および阿閉郡河合住弁海は、興福寺僧玄智および東大寺僧弁海と、同一人物である可能性が生じる。



【図4】「東大寺供養請僧交名案」
(玄智 = 右から12行2段目)
©京都府立京都学・歴史館



【図5】「東大寺供養請僧交名案」
(弁海 = 右から13行1段目)
©京都府立京都学・歴史館

場所を指す地名であり、河合と意味が似通う。巻第十二の執筆者も弁海であること
を考慮すれば、落合も同じく阿閉郡内の地名である蓋然性は高いと思われる。

以上のように、建久四年に書写された『俱舎論』三巻は、阿閉郡河合住の弁海に
よつて、阿閉郡内で書写されたと考えられる。続いて、阿閉郡がどのような性質の土地
であったのかを、「伊賀市史」を参照し確認してみたい(6)。

阿閉郡は伊賀国の北部、近江国や伊勢国との境に位置し、古くは東大寺造営の際に
開かれた柚場である玉瀧柚が設けられるなど、その立地的条件から南都との関わり
が深い土地である。十二世紀の河合の北部には東大寺の荘園である横山荘、内保荘、
玉瀧荘、湯船荘、鞆田荘が広がっていた【図3】。河合はその名称が示すとおり、これら
荘園を流れる河川が合流する地域に該当すると思われる。合流した河川は河合川と
呼ばれており、その下流では柘植川に合流し、やがて南から流れてくる服部川とも
合流した後に木津川へと至る。柚で採取された用材はこのルートを下り平城京に運ば
れたのだろう。『俱舎論』が記された建久四年は、まさに南都復興の最中であり、多く
の用材がこれらの荘園から運び出されたことと思われる。

このような性質の土地であること
から、弁海の住む河合も東大寺の荘
園であったと考えたいが、河合付近に
比定されている平柿荘は、当初は東
大寺荘であったものの、十二世紀半ば
には撰関家領になっていたと考えられ
る。平柿荘は建長五年(一二五三)の時
点では「近衛家所領目録」に記載され
ているが、もとは平柿荘が撰関家出
自の女院領として再編された高陽院
領であったことも記されている(7)。高
陽院領は、藤原忠実の娘・泰子が保延
五年(一二三九)の高陽院の宣下に際し、
忠実から与えられた所領郡であった
という。建久四年の時点では平柿荘は
撰関家領だったのだろう。



【図3】12世紀の阿閉郡荘園推定図 (『伊賀市史』に基づき作成)

その平柿荘の西方・柘植川の下流にあたる地域が、春日社領の新居に該当する。
承安二年(一二七二)には、平家貞という人物が新居荘で春日社神人を殺害し、興福寺
の大衆が蜂起するという事件が起こっている(8)。新居が十二世紀後半には春日社・
興福寺の影響下にあったことが判る記録である。平柿荘の隣接する音羽荘も撰関
家領であり、平柿荘から柘植川を挟んだ向かいには春日社領の般若荘があるなど、
十二世紀末の平柿荘の周縁には撰関家・春日社の所領が広がっていた。河合と新居は
近隣と思われるので、弁海が行き来し写経を行うことは容易であっただろう。

これらの記録から、伊賀国阿閉郡の北部は東大寺の、南部は撰関家・春日社の荘園
が点在する土地であり、それぞれの影響下にあったことがうかがえる。

四 『俱舎論』書写の歴史背景

それでは、なぜ『俱舎論』が書写されたのであろうか。筆者は建久四年書写本を、
一切経の『俱舎論』だけが現存したというよりは、『俱舎論』を書写することが目的で
あったと考える。その根拠として、平安時代後期から鎌倉時代にかけて、東大寺の
東南院を中心に俱舎学復興の機運が高まっていた歴史背景を、先行研究に基づき
指摘しておきたい(9)。

俱舎学の研究が活発になっていった契機として、東大寺東南院院主である三論宗
学侶・覚樹(一〇八一―一二三九)の存在が指摘されている(10)。覚樹は『俱舎論記』、『俱
舎論疏』など、俱舎学に関する書籍を著しており、その流れは十二世紀を通して東大
寺で行われていた、俱舎学研学の場である俱舎三十講へと結実する。

このような機運の中、十二世紀には、世親をはじめとする俱舎宗の祖師たちを描いた
「俱舎曼荼羅図」(国宝、奈良・東大寺)が製作されている。「俱舎曼荼羅図」はその製作
にあたり、「法華堂根本曼荼羅」(アメリカ・ボストン美術館、奈良時代)を手本として
いることが判明しており、久安四年(二四八)に行われた「法華堂根本曼荼羅」の修理
に、覚樹の高弟である珍海(一〇九二―一二五二)が携わっていることから、珍海が「俱舎
曼荼羅図」の作者と推定されている(11)。そして、この「俱舎曼荼羅図」を本尊として
掲げる法会の場合、俱舎三十講であった可能性が、谷口耕生氏により具体的に指摘
されている(12)。

以下、本作と二連の事業で書写されたと思われる建久四年書写の『阿毘達磨俱舍論』卷第十、および卷第十五の奥書を『日本古写経現存目録』に基づき引用する(2)。

(卷第十奥書)

建久四年癸丑七月二日於川合未尅写畢

願主 伊賀国阿閉郡河合住 弁海境妙房

(別筆)天福二年七月二日伝領之 実集之

(卷第十五奥書)

建久四年癸丑七月五日於新居郷書写畢

願主 伊豆国走湯山住玄智禪如房生年卅四

執筆 伊賀国阿閉郡河合住弁海境妙房生年満四十

このように、三巻の奥書に記された書写年、関与した人物といった基本的な情報は一致し、これら三巻が一連の写経事業であったということが判る。書写された順番は、日付から卷第十、卷第十五、卷第十二の順番となる。必ずしも巻の順番通りに書写されているわけではない。

ここで、『阿毘達磨俱舍論』の概要について確認しておきたい(3)。『阿毘達磨俱舍論』は五世紀中頃に、北インドのガンダーラ地方で世親(ヴァスバンドウ)が著した。漢訳本としては陳の真諦が五六三〜六七に訳した『阿毘達磨俱舍論』(『俱舍論』)と二十二巻と、唐の玄奘が六五〜五四に訳した『阿毘達磨俱舍論』(以下『俱舍論』)と表記する(三十巻の二種類が知られており、前者を旧訳、後者を新訳とする。日本には南都六宗のひとつとして俱舍宗が法相宗と共に伝来し、俱舍論三十巻が天平十二年(七四〇)には伝わっている。東大寺や興福寺をはじめとする、南都の諸大寺で学ばれた経典である)。

建久四年書写本も当初は全三十巻が作られたと思われるが、現状ではその内の三巻しか確認されていないため、残りの巻に他の人物名が記されていた可能性も皆無

とは言えない。そのため、玄智と弁海の二人だけで行われた事業なのかについては判断し難い部分はあるが、願主として名前が出てくる二人が中心的人物であったことは疑いないだろう。

それでは、玄智と弁海が建久四年に『俱舍論』を発願・書写するに至った理由として、どのような背景が考えられるであろうか。限られた情報ではあるが、これら三巻の奥書を手がかりに、その背景を考察してみたい。

三 書写地について

建久四年書写の『俱舍論』三巻はその奥書より、願主である玄智が伊豆国走湯山に住んでいたこと、同じく願主であり筆を執った弁海が、伊賀国阿閉郡河合に住んでいたことが判る。伊豆国と伊賀国というように、離れた土地に住む者が携わった写経であるが、まずはその書写地について確認しておきたい。

書写地は卷第十が川合、卷第十二が落合、卷第十五が新居郷の地で書写された旨が記されている。十世紀に成立した『倭名類聚抄』によると、伊賀国の阿拝(閉)郡は柘植、川合、印代、服部、三田、新居の六郷からなる郡であったという(4)。「阿閉」は「阿拝」「敢」とも表記するが、本論では写経の記述に則り「阿閉」で統一したいと思う。卷第十が執筆された川合は弁海が伊賀国阿閉郡河合住を名乗っているため、「倭名類聚抄」の記すところの阿閉郡川合郷を指す可能性があると思われる。十世紀の川合郷は、阿閉郡の北部山間部に該当する地域で、概ね十二世紀頃の川合も同様の範囲と考えられる。川合は、現在の行政区画における伊賀市川合区・河合川として地名が残っており、おおよそその位置を知ることができる。

卷第十五が執筆された新居の地名は全国に見られるが、前述のとおり阿閉郡にも新居郷が存在する。卷第十が川合で書写されており、その三日後に卷第十五が同じく弁海により新居郷で執筆し終えていることを考慮すれば、ここで述べられている新居郷は阿閉郡の新居郷を指していると考えるのが自然であろう。新居は現在の伊賀市東高倉の地域に地名が残っている。

卷第十二に見られる落合については、服部川と木津川の合流地点である伊賀市長田付近を落合とする見解もあるが(5)、特定には至っていない。落合とは川が合流する

上原美術館所蔵 建久四年書写

『阿毘達磨俱舍論』卷第十二について

— その製作背景を中心に —

上原美術館 菅野龍磨

一 はじめに

静岡県下田市・上原美術館が所蔵している『阿毘達磨俱舍論』卷第十二は、その奥書より、建久四年（一九三）に伊豆国走湯山に住む玄智禪如房を願主として、伊賀国阿閉郡・河合に住む弁海境妙房により書写されたことが判明する、鎌倉時代の古写経である。

本作と一連の事業で書写されたと思われる写経として、同じく建久四年の奥書と、玄智・弁海の名前が記された『阿毘達磨俱舍論』卷第十、および卷第十五の存在が『日本古写経現存目録』にて確認することができる（一）。『阿毘達磨俱舍論』卷第十二は『日本古写経現存目録』でも取り上げられておらず、従来その存在が知られていなかった写経であるため、本論で概要を紹介しつつ、その製作背景に関する若干の私見を述べてみたいと思う。

二 作品の概要

上原美術館所蔵『阿毘達磨俱舍論』卷第十二は紙本墨書とし、一紙の大きさが、縦二七・二cm、幅五三・五cmの紙を用いる。その紙を〇・五cmの糊代を作り、本紙は全十四紙を継ぎ合わせている。後補の表紙が二七・〇cm、一紙目が五二・三cm、奥書が記された十四紙目が七・八cmの幅となり、合わせて全長七二・三cmとなる。一紙には二九行が界線で区切られており、一行につき概ね十八〜二十字が書写される。以下、奥書を記す。

（卷第十二 奥書）【図1】

建久四年癸丑九月十二日於落合（之カ）了

願主伊豆国走湯山住玄智禪如房（註）

執筆伊賀国阿閉郡河合住弁海境妙房（註）

一 授畢

その他の特筆すべき点としては、以下の四ヶ所に振り仮名のある文字が見受けられた。

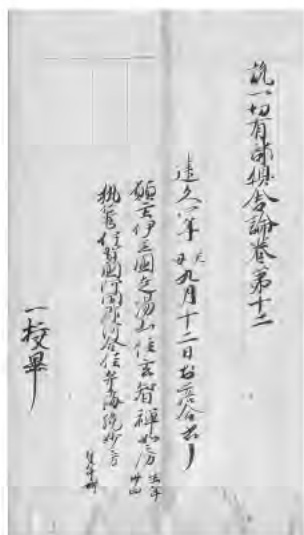
（卷第十二 該当箇所）

「若王生在利帝利種紹灑頂位」
セウワヤ

「昇高臺殿臣僚輔翼」【図2】
リキョウ

「其輪千幅具足穀輞」
コウワ

「舒妙光明來應王所」
ハナチ



【図1】『阿毘達磨俱舍論』卷第十二（奥書）
上原美術館蔵



【図2】『阿毘達磨俱舍論』卷第十二（部分）
上原美術館蔵

静岡県博物館協会 研究紀要投稿規程

1. 投稿を受け付ける原稿

(1) 内容規定

加盟館園職員が従事している職務(展示・調査研究・保存・教育普及・その他)に関する論文、報告、事例紹介、収蔵品紹介等
※専門分野に関するものに限りません。学芸職員以外の投稿も歓迎します。

(2) 執筆者規定

加盟館園職員一人もしくは複数人の執筆によるものとします。複数人による場合、全執筆者の1/3が加盟館園職員であることを条件とします。

2. 入稿規定

(1) 原稿の種類

日本語による原稿を基本とします。

(2) 入稿の方法

デジタルデータと印字原稿、必要なら図版(ポジ、印画紙写真、デジタルデータ、図面等)等を併せて提出して下さい。
デジタルデータはOSを問いませんが、必ずテキストデータを添付して下さい。図版のデジタルデータはJPEGに統一して下さい。
※万一の場合に備え、原稿提出の際には必ず手元に控えを残しておいて下さい。

(3) 分量

ページ数目安(1ページ当たり)	事例報告等(1~4ページ分程度)	事例報告等(1/2ページ分)
論文 縦書き 写真無しの場合 2,000字	縦書き 写真無しの場合 2,000字	縦書き 写真無しの場合 1,100字
写真有りの場合 1,600字	写真有りの場合 1,600字	写真有りの場合 900字
横書き 写真無しの場合 2,000字	横書き 写真無しの場合 2,000字	横書き 写真無しの場合 1,100字
写真有りの場合 1,600字	写真有りの場合 1,600字	写真有りの場合 900字

(4) 文字原稿(印字原稿は次の書式でご提出下さい)

字数(1シート) A4版 40字×30行
※誌面レイアウト・フォーマットに揃えた入稿も歓迎します。レイアウト見本をご希望の方は、事務局にお問い合わせ下さい。

(5) 図版原稿(1ページの版面はA4)

カラー(巻頭図版) 掲載希望があればご相談下さい。
モノクロ すべて挿図として扱います。

- a カラー図版原稿には、目次用のデータを明示して下さい。
- b 挿図原稿裏面に挿図番号とネームを記入して下さい。デジタルデータの場合は、データ名に明示して下さい。
- c 挿図原稿のコピーもしくは印刷された挿図原稿に、掲載希望範囲を、製版作業の支障にならないよう、明示して下さい。
- d レイアウトや掲載時の大きさの希望がある場合は、その旨注記して下さい。
- e 本文の印字原稿に、挿図番号で挿入箇所を示して下さい。

(6) 図版の著作権申請

写真等掲載に関する作品所蔵者・著作権者からの許諾等取得は、執筆者が行なって下さい。なお、当協会紀要は協会ウェブサイトにもアップされます。

(7) 執筆者の表示

原稿には氏名・自宅住所および所属機関所在地(それぞれ〒、Tel.、Fax.番号)・部署・役職を明記して下さい。氏名には読み仮名をふって下さい。
成果品である紀要には、氏名と所属のみ記載します。

3. 原稿の送付先

原稿は、下記宛にお送りいただくか、ご持参下さい。

〒422-8002 静岡県静岡市駿河区谷田53-2 静岡県立美術館内
静岡県博物館協会事務局
Tel. 054-263-5857
Fax. 054-263-5742

4. 日程および申込・校正手順

(1) 日程 (予定)

申込締切 2020年 11月末日
入稿締切 2021年 1月末日
発行予定 2021年 3月末日

(2) 申込方法

申込締切までに、下記項目を静岡県博物館協会事務局宛にご連絡下さい。

- ・ 執筆者 (複数執筆者の場合は、全員の氏名と所属を明記)
- ・ 題名 (仮題で可)
- ・ 分量見込 (レイアウト見本による全ページ数で表示。図版、表等の希望も含む。)
- ・ 縦書き、横書きの希望

※分量は、1本の論文当たり15ページ以内を基本とします。

(3) 申込の確認

静岡県博物館協会事務局は、申込締切後2週間以内に、執筆者申込時の分量見込みに基づいて紀要製作の見積もりを行いません。予算上製作が可能であれば、全申込者に申込通りの分量での執筆が可能である旨を連絡します。予算上不可能な場合は、申込者に対して分量についてのご相談を行ない、ご執筆いただく分量上限を決定します。

(4) 入稿の方法及び原稿の掲載

入稿は、上述2の「入稿規定」に従って、上述3の「原稿の送付先」に送付するか、ご持参下さい。4-(3)で示した事情により、実際に入稿した原稿が分量見込みより増えた場合、執筆者に分量を減らしていただくか、当該号での掲載を取りやめることがあります。

(5) 校正

入稿締切までに入稿された場合、執筆者は文字校正(図版等を含む)2回を行なうことが出来ます。入稿締切が守られなかった場合は、この限りではありません。

(6) レイアウト

レイアウトはフォーマットに基づき、執筆者の希望を尊重して行ないますが、最終的には静岡県博物館協会事務局が決定します。

5. その他

(1) 文責

原稿の内容についての文責は、全て執筆者にあるものとします。著作権や誤植、不適切な表記等の問題について静岡県博物館協会及び静岡県博物館協会事務局は、一切の責任を負いません。

(2) 執筆者への成果品割当

執筆者には、30部を贈呈します。複数執筆者の場合、全員分を合わせて90部を上限として贈呈することが出来ます。

(3) 抜き刷りの作成

執筆者から希望のある場合、実費をご負担いただくことで、執筆箇所の抜き刷りを作成します。静岡県博物館協会事務局にご相談下さい。

静岡県博物館協会 研究紀要 第43号